江戸名所図會

十六

839
20
57

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

江戸名所圖會卷之六

根岸舊藩 鞆氏寄贈
曹山文庫
昭和 帝國圖書館

神田之部 目録

神田明神社
湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

神田之部

神田明神社

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

祭神大己貴命 少彦名命 平将門命

社記に曰く、天平二年武蔵国豊島郡芝崎村に鎮座す。天慶三年平将門の乱に当り、将門の霊を合祀す。将門は相馬小次郎と称し、下総国猿島郡に住す。父良将の遺領を争ひ、叔父国香を殺す。これより叔父良兼・良正と戦ひ、ついに常陸・下野・上野の国府を攻め落し、自ら新皇と称す。藤原秀郷・平貞盛等これを討つ。将門の首京都に送られ、東国の乱平定す。

湯島天神社

神田明神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

祭神菅原道真公

社記に曰く、文明年中の勧請なり。寛永年中湯島に移す。

神田八幡宮

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

祭神誉田別尊

社記に曰く、康平六年源頼義奥州征伐の時、石清水八幡宮を勧請す。

佐久間町八幡宮

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

祭神誉田別尊

社記に曰く、康平六年源頼義奥州征伐の時、石清水八幡宮を勧請す。

筋違橋

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

和泉橋

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

昌平橋

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

新シ橋

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

柳原土手

湯島天神社
神田八幡宮
佐久間町八幡宮
筋違橋
和泉橋
昌平橋
新シ橋
柳原土手

湯島之部 目録

岡場之部
金龍山浅草寺
観音堂
古跡
山門
結城秀康卿之霊廟
二社権現社
護摩堂
鐘楼
淺草寺奥院
淺草寺子院
二天門
淺草寺境内末社
淺草寺境内末社
淺草寺境内末社

永昌寺
東叡山山下の景
養玉院
金杉安楽寺
不動堂清滝の松
永戸孝範第宅回遊　三河町
俊るの塚
熊野権現社　俗に新宮
下谷稲荷社
常楽院　二番組与力同心
入谷庚申堂
金杉安楽寺
養輪西光寺
万里小路寓居之地
飛鳥明神社　瑞光石
光薬寺
浄閑の淵
大師加持水
大師堂　不動堂
小塚原天王社
子original大橋　小塚川
富士浅間宮
西方丸法大師堂　不動堂
梅田明王院　天満宮
石濱城跡
下谷岡
上野坂本口圖
小野照崎明神社
時雨岡
子来郷　稲荷社
山谷熱田明神社
誓願寺
沼田延命寺　二番組
十二天森
八月村八幡宮
鷺大明神社　同祭
名日神明宮
思ひ川

隅田川渡
石濱古戦場
一平合戦之圖
泡尾不動堂
浅草寺　観音堂　五重塔　雷門　仲見世　宝蔵門　二天門　淡島堂　弁天堂　奥山　伝法院　新吉原
瓢箪池
妙亀塚　古墳
姿婆掛松
柔女塚
吾妻橋
秋葉別当寺実蔵寺
東野先生墓
長昌寺　宗論の芝　種の浦来由
今戸八幡宮
法源寺　従二位権大納言日野資枝卿墓道石塔
今戸陶器師
山谷堀今戸橋の景
聖天宮
田甫堤
新吉原町

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

金龍山淺草寺　傳法院と號す坂東順禮呼第十三番目なり天台宗にて東叡山に屬せり

按るに東鑑を建久三年壬子五月八日法皇四十九日の御佛事に百僧供を修せらるゝと甚条に僧元の中に淺草寺よりも三口とあり又同書に建長三年辛亥三月六日淺草寺に集會する呼に供の莊嚴を見て廿四人立呼に病忽然と出現し奔走の時に小兒偈五十口ばかり食堂より走り出ると記せり寺僧五十口ばかりを受七人帰座に及ぶと記せり往古も猶大伽藍なるを知るべし永祿二年小田原北条氏の分限帳に淺草寺衆分四拾貫九百文を附せたり

本堂　本尊聖觀世音菩薩　世に傳ふる所の御長一寸八分と云ふれども古より秘佛にて輒く寶帳を裏されば甚實を知らず

脇士　梵天帝釋　此二尊は行基大士の作なりとあり紙に　四天王　脇壇　右不動明王　左愛染明王　後左右　三十三身像　其余堂内小者の佛天を安置すること甚多し

額　觀音堂　御拜の　大明福州漳郡龍邑徐紹勳筆

額　絶無畏　外陣の家帯に　深見玄岱筆　天井の乳の〳〵ひ小内陣天井の鳳凰後壁の二十八衆製筆は狩野永真の筆拜殿の天井小畫る天人八狩野探幽春の筆あり

聊内陣の左右小掲る印

山號月輪雲光之壁

松が枝の傳

松が枝の傳は本尊の二字を住す筆者孟寛の傳あれども古けき紙なりとぞ

古繪馬　脇壇左の方不動尊の前小かけそりなりとふ說あり

寛政の始幸堂修營あり〳〵頃狩野尚某親是を影寫す實永六七百年を經る古物なりとぞ傍小畫家の名及印章等あれども煙滅〳〵

傳いふ往古此馬毎夜小廐を穢し草を喰あらすに傳へらるゝ既るを以て天下に號けく畫ると雖も猶實の性をうしなはず

近き田畑をもあらしかれば甚須左甚五郎と云る名匠等に彫刻を頼みて曳繩を同時の物として書添〳〵む仍甚後の此を止めりとぞ　是古ある後世書加へたるよし

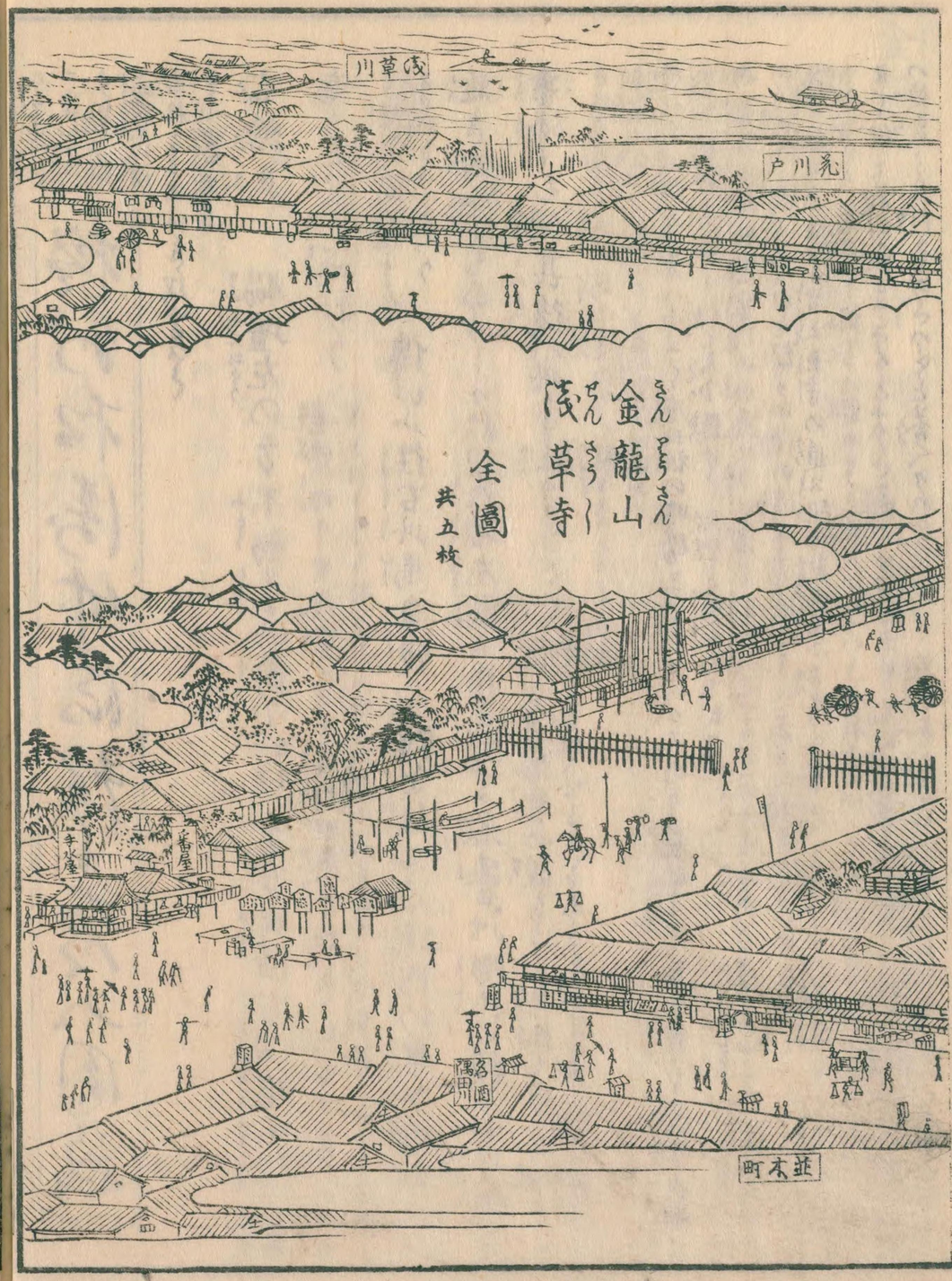
されど畫する所の馬小靈ありて殺生をうとゐる多頃

歷代名畫記　巻第八小云く唐世祖の時楊子華といふ人あり當壁上小馬を畫く甚て其妙を盡せり夜嘶て妄誕小似さりといふとも甚後とするあり

水草を索ろ〳〵仍て天下に號けく畫ると雖も猶實の性をうしなはず

揮塵後録小曰く宮門の両廡の下小畫く本の人馬これありしを紙小うつしとりたるを以て本の畫ども皆消失せりと云々

元亨釋書小云く昔天王寺の道公紀の鉢序山小安居して芸終て帰るさの道暮うし遠んて大樹の下小宿りぬ一老翁ありやとゝふ一老翁ありやとゝふ彼者云ふ汝何を求小進せるとすると答ふ翁云く仕也と答ふ翁云く仕也と答ふ翁云く仕也と



きんりうざん
金龍山
せんそうじ
浅草寺
全圖
共五枚

田園雜記
浅草というは
庭小残れる芒もを
ことなりて

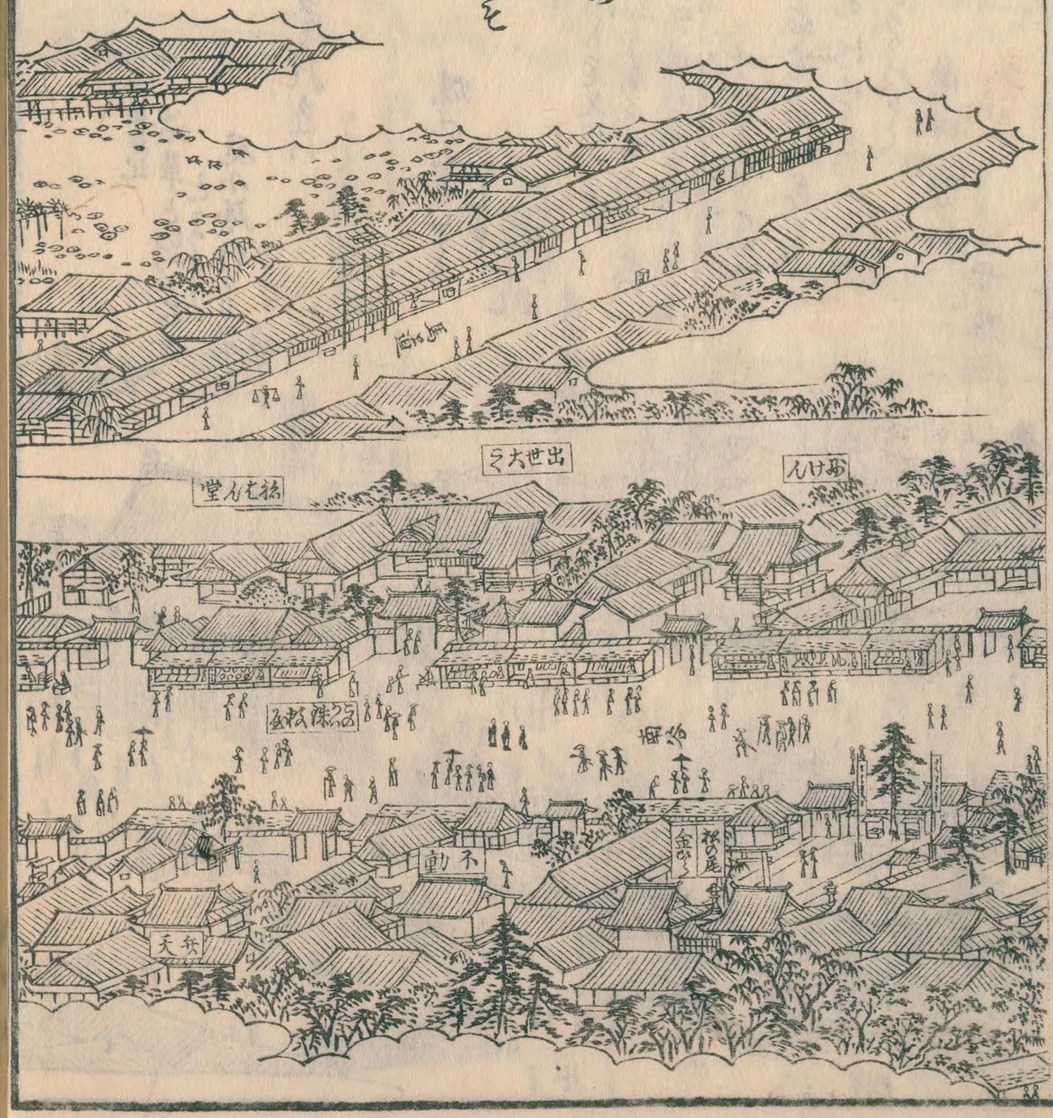
東國記行
角田川もえにくるよ
春の
ある物あり
冥東順禮謌
浅草
庭
とうろう立よりそ
秋
露
角田川
宗牧

道興准后
庭
のことを
うつ
秋
あはれ
本
露

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

其二

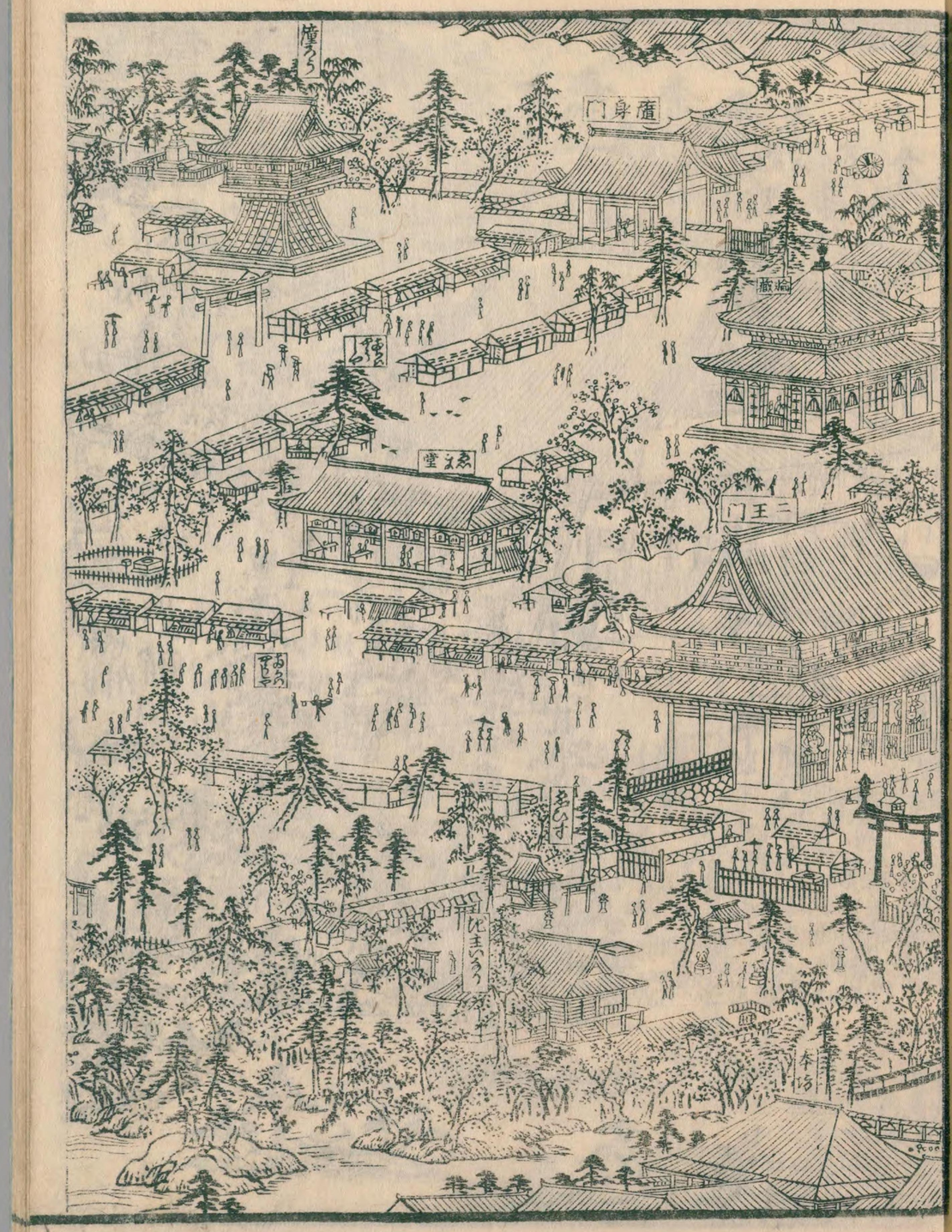
二十軒茶屋
千住葭茂
り昔いその不の
茶店ゝゝ御福の
茶ものれとそ奈
良の人をいざなふことそ
今も其のゝれの負
二十余軒あるかよ
倍をゝゝ
二十軒茶屋と
いふゝゝ



五え集
名の
枕ゝ
鮫や
ゝゝ
今ゝ
茶屋

其角

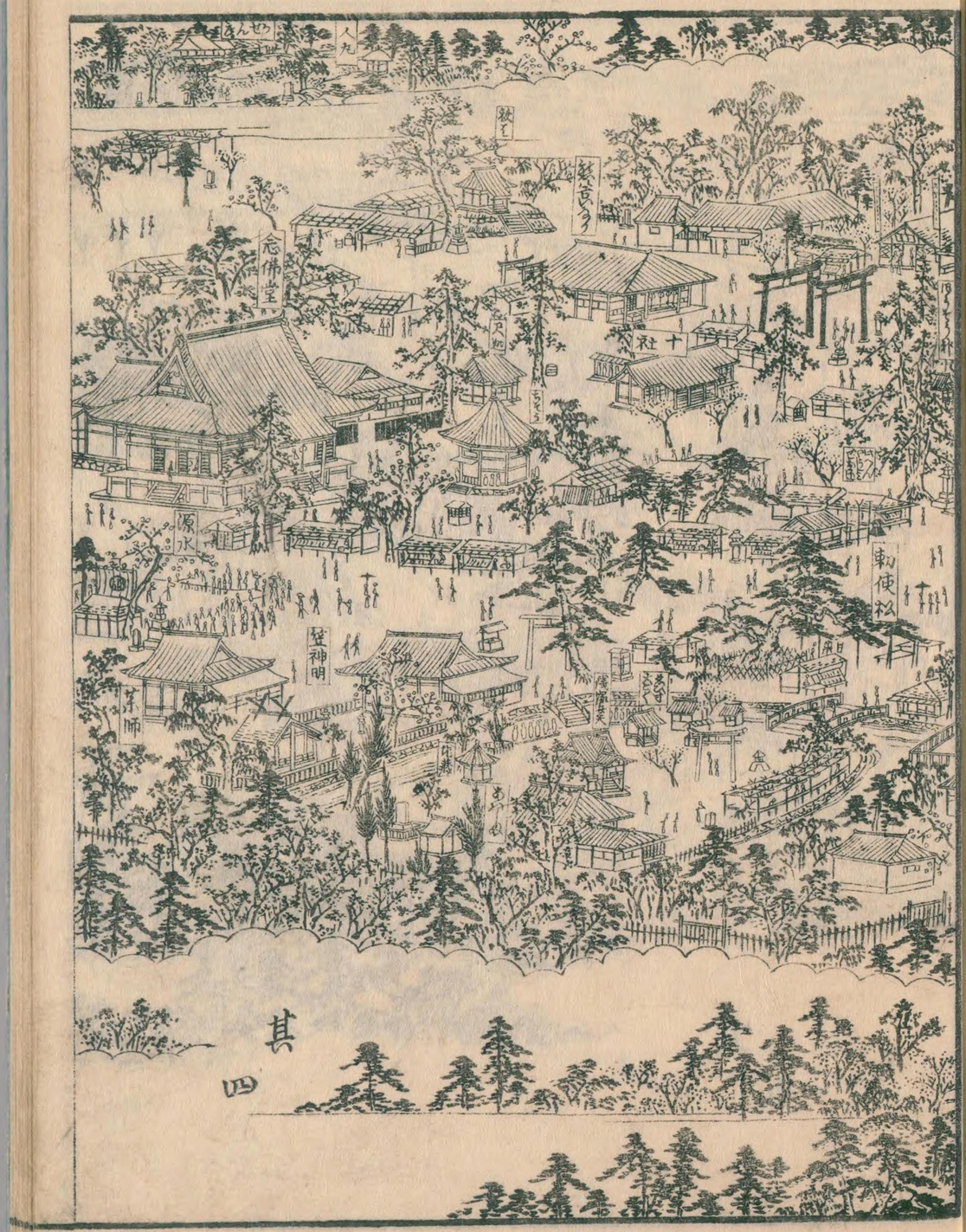
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

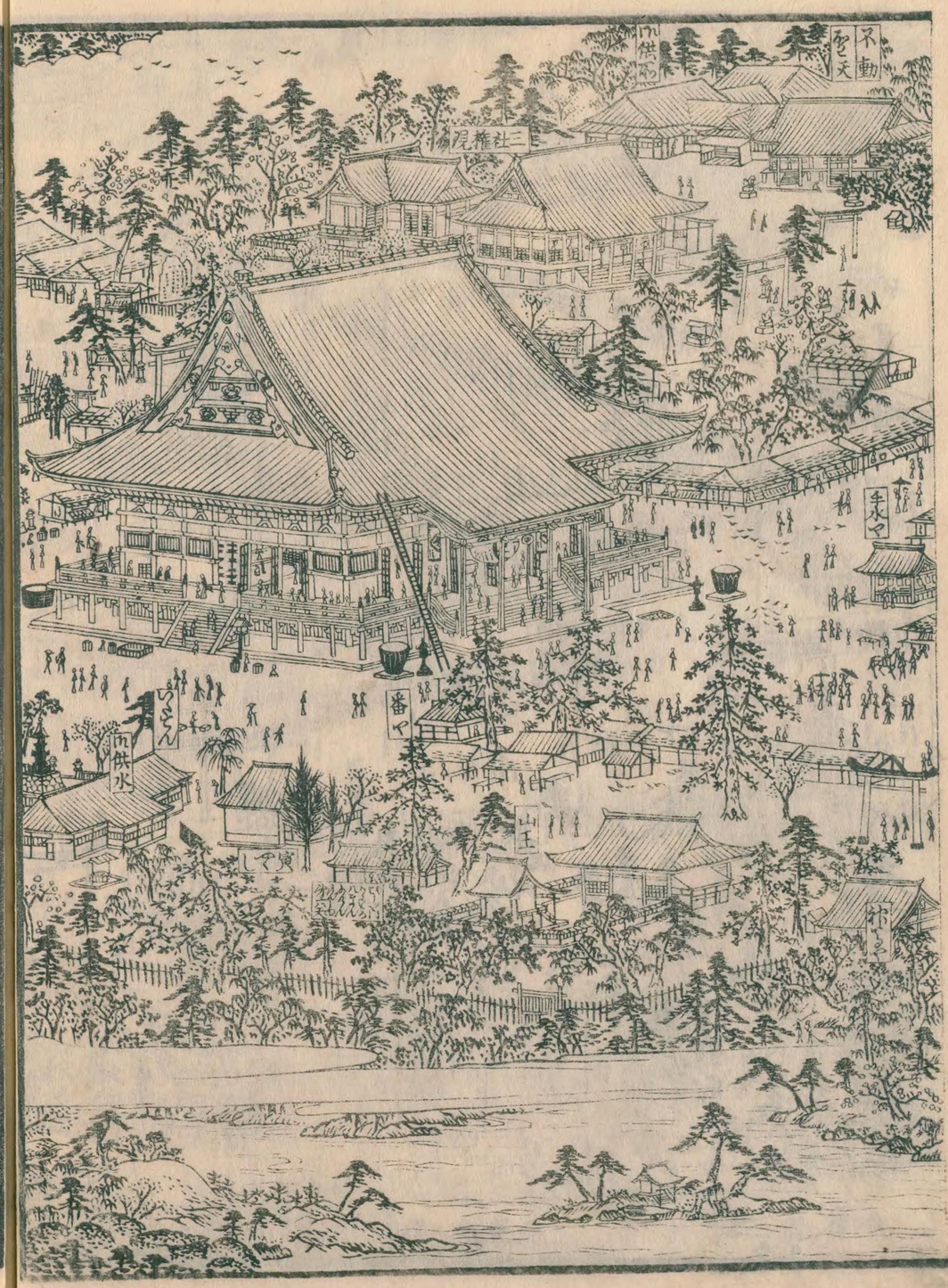


其三

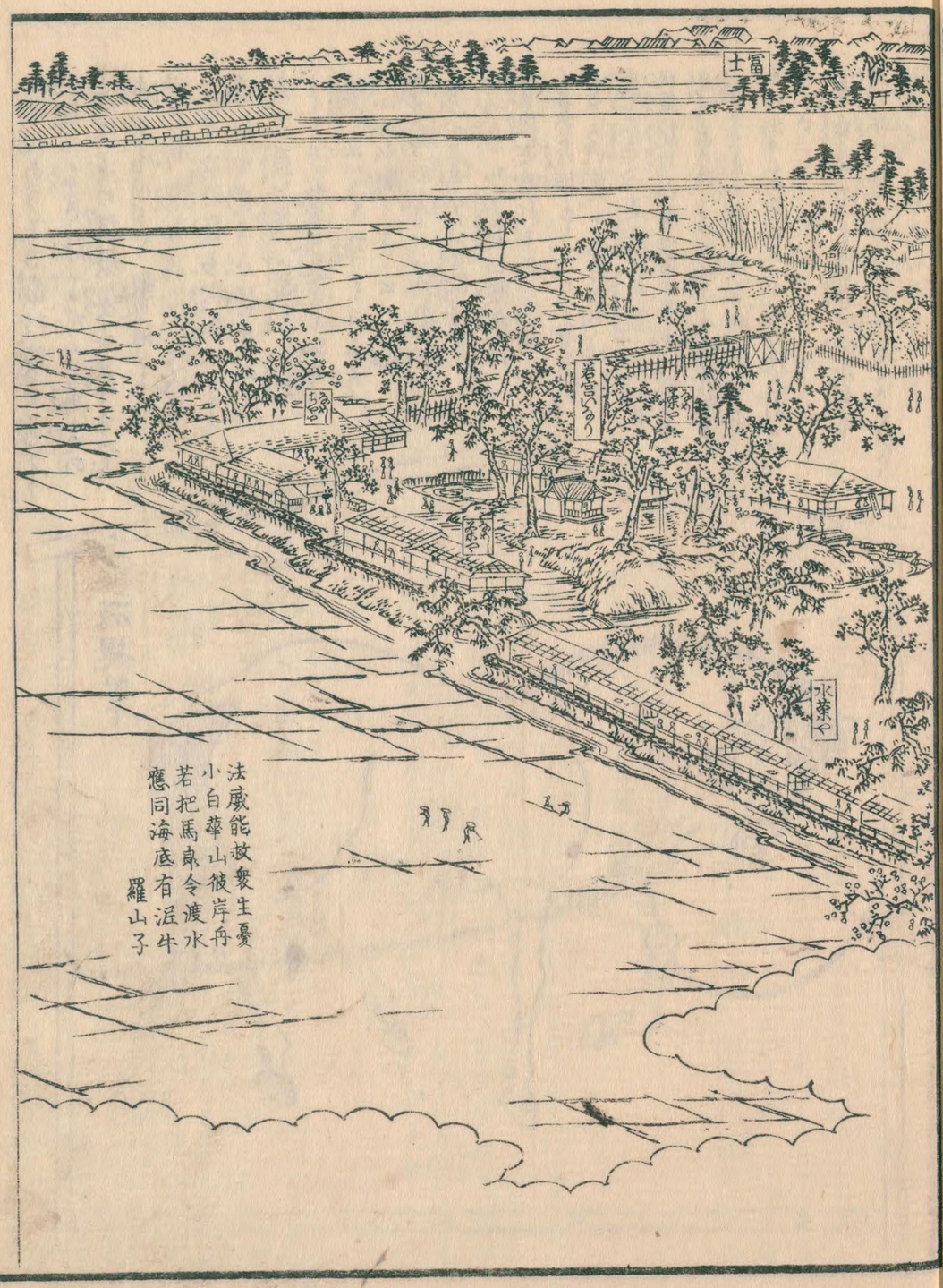
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

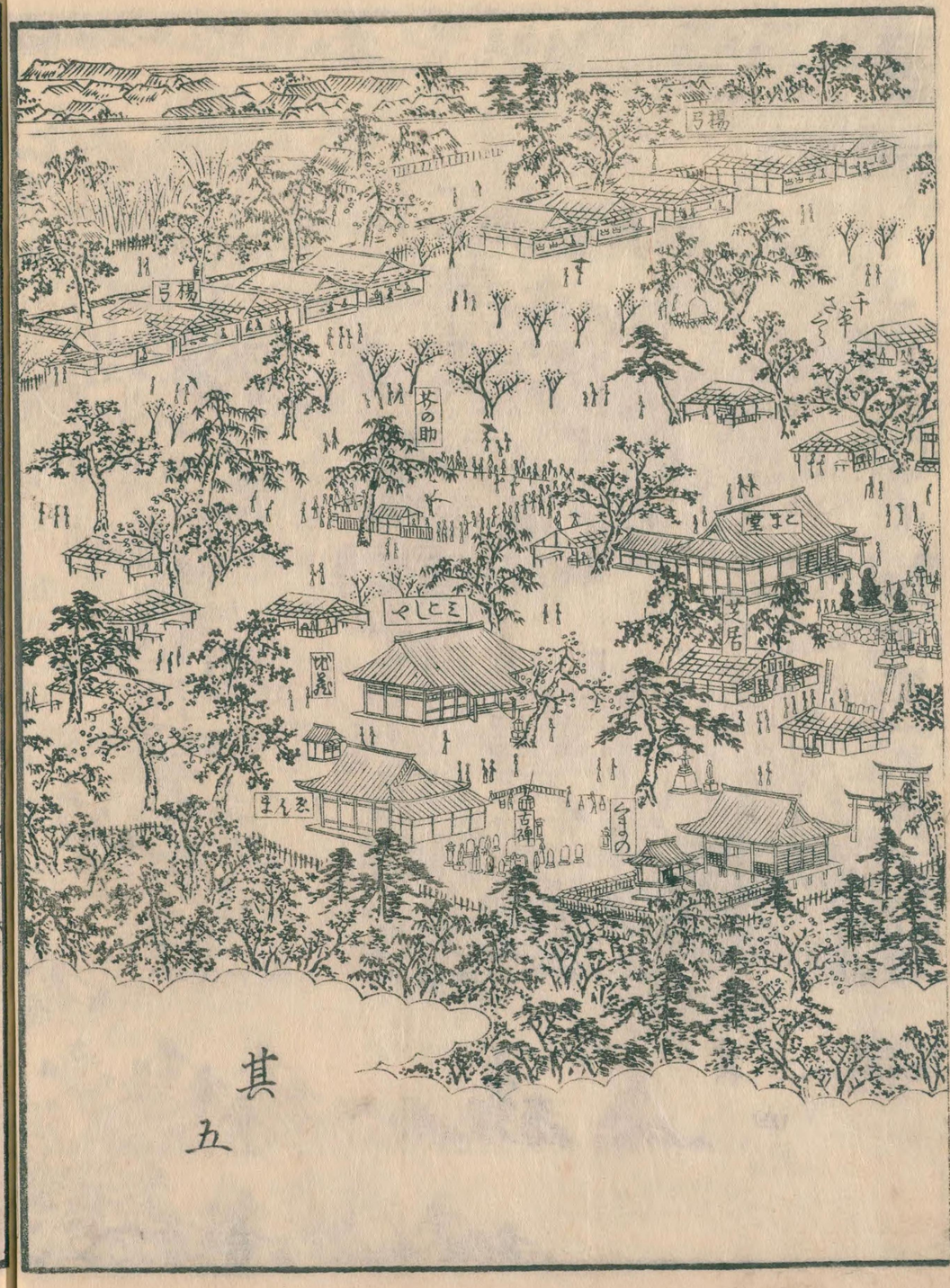
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

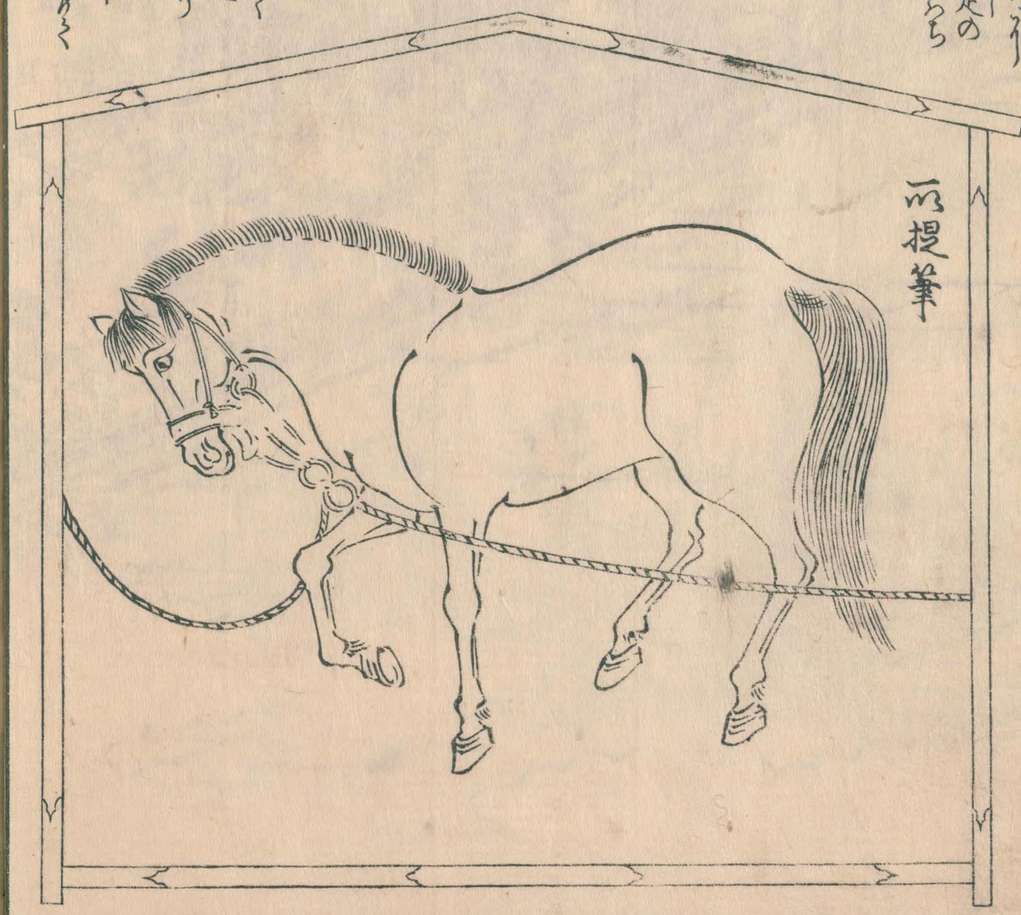




其五

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

小神祠ありその像杉檜と称す
一所の古さ伝ふるなり前足の
ところその板破裂せるなり
糸をもかく繋神
前の神言をあくろくんと
しるくその夜も狩樹下
宿と中夜まさに猪馬のく
来つて綱を咋ふ綱を小桑
しるくさるなり延くる出さり
暁小至つくる帰まきくる
くる小厄く謝くる云く師
馬の脚を治一ありこと
幸ひ小堪さろ公向孫ろ
のくそからと翁日役疫神
管内を巡れるありまる
も其お掘そろりりさきれい
くろのくん罵を受く今師の
恵を蒙り来慶基深しとぞ
丙辰記わる小昔ぜ不小牛鬼の出く
走りありくるを不図も甚驚歩く
くることと大士の化現なれるふとそ
牛の出くるをありくかり死とあり
まく
挙白条めつその道の紀ふく
伐草の観音とくる出ありてくる
るす仏おくとは小まりセて



一提筆

いつなれや狩辺かり餌ふ渉草のふ。
投小挙向集ありこともも甚へとなりれとろそろ越の似
大士の化現なりなと幸ひ此縁るる小霊あるくく扶ち
のセ幸へくるふや寛永年中観音堂回禄のとき紀木村市右衛門
焼うどんるを歎き助けやくなりとくく別当智楽院僧正甚志を感しくく
如く記くる亜生てろ
寛永十九壬午十二月十九日炎焼之時武州江戸之住木村市兵衛出く

紅葉狩繪馬

は一所小掲そろ曽我蛇足九代孫曽我紹叔
の筆ありり

静長刀

本堂の後の方家蔵ふかけくありり世小義経の妾静御前納る所ありと云伝へくろこれ
静慌の長かく永ありい云長刀瀧治志ほ三郎鎌倉の作ありへと

山門

樓上小文殊菩薩の像を安亜く檜下の左右ろい金剛力士の像を安亜来由い此巻報恩
ま什宝蛇反鉾の条下小詳ろくされと往古の霊像い回禄ふて焼うどんるを歎き助けやくなりとくく別当智楽院僧正甚志を感しくく
後人の作ろり毎年春秋二度の彼岸の中日あくい小正月七月十六日い諸人の登るるをありと

額

浅草寺

曼珠院二品良尚法親王真蹟

五層塔

山門の内右のふいあり一切経を収む前小傳大士ありひろ普
内小五智如来を安亜す
椎の建立ろくく今あり呼の堂い天和年中
焼亡の後の御建立ろり
拝ろる小本尊ふ縁起の中小永和に年戊午十二月十三日
送ろといとも未一ろの再興も致さと大元懇祷ありる呼小修行の聖定滅ありるの十方小勧進

轉輪藏

回呼小ありり
賢普成の像を安呼ふくりの堂い甚始妻房宗公
回呼東のろいあり豊般若尚座
命楠般若尚座の像を安ろり

隨身門

回呼小ありり
鐘樓
豊田綱あり永慶元年より三歳の居諸を

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

し慈永ふまり數ふ終成就ありまとある碑れい弘所記等の書小延慶中女房宇都宮公雅觀音堂再興ののとき一軀の息像を鑄てふくく一樓小ふくとある永和の田畑小亡ひふくり撞のつまりて至徳に年小ふまり再び今ある所の梵鐘を鑄冶ひくとまるへく至徳に年小ふまり慶と改えの年ふくり

日本國武州豐島郡千束鄕金龍山淺草寺洪鐘銘

並序

夫鐘者震梵苑之枯禪發驗檀之深省者矣南閻浮提各以音聲長爲佛事西郡勝地特開樣蓂此道場於是傳法聊持短疏勸發善緣新鑄息乳之鐘永扣龍澤之月耳根契證者速趣解脫之門庭眼裏聞聲者則蘆田通之妙果當時若不記者後代誰得識哉銘曰

末鑄成前　響隅九天　新鑄成後　福應大千

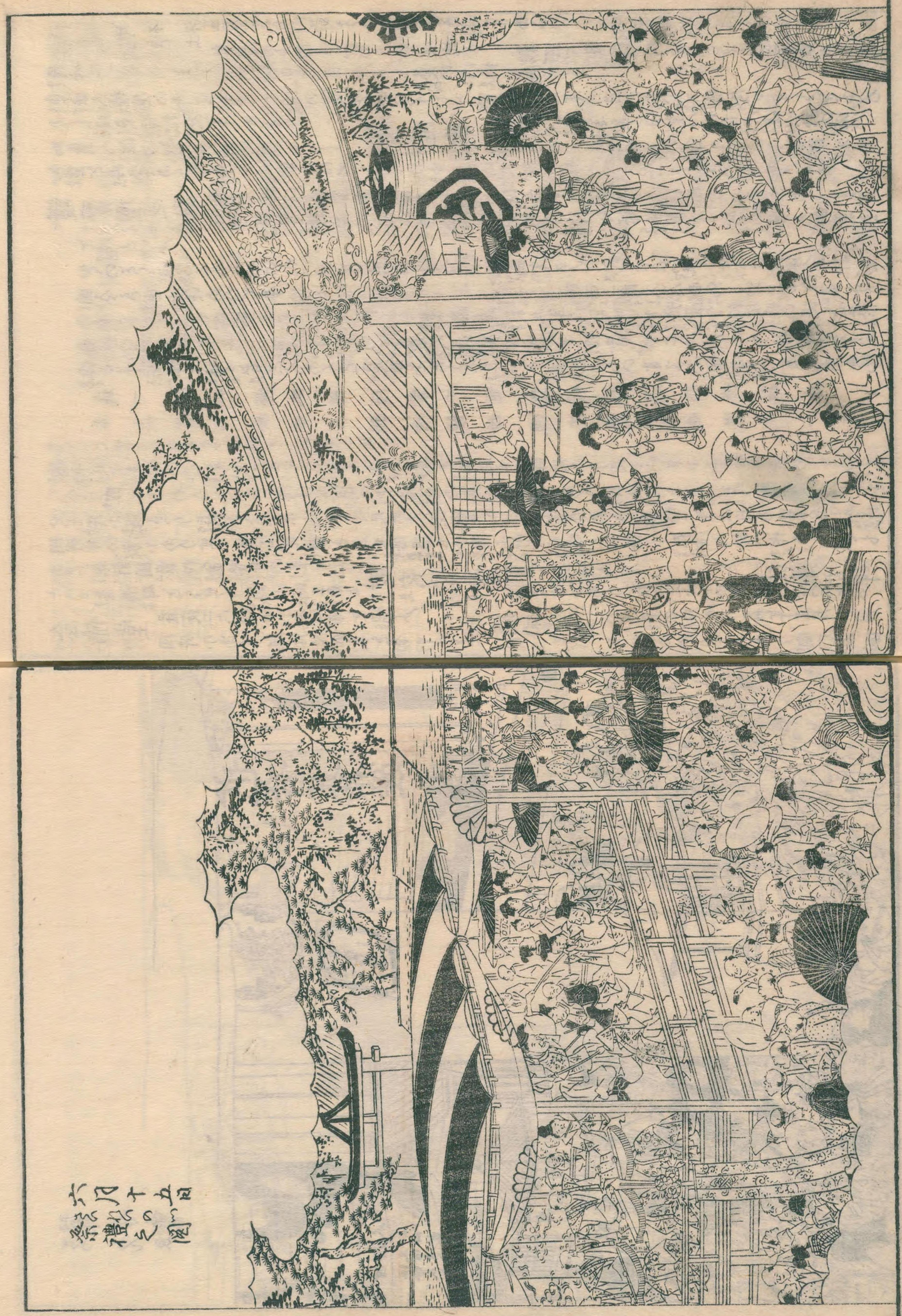
規摸脫出　當空高懸　輕輕撞著　遍佛事邊

至徳二年丁卯五月初三日　大勸進僧都海譽

小勸進大和國道高

鑄工和泉守經宏

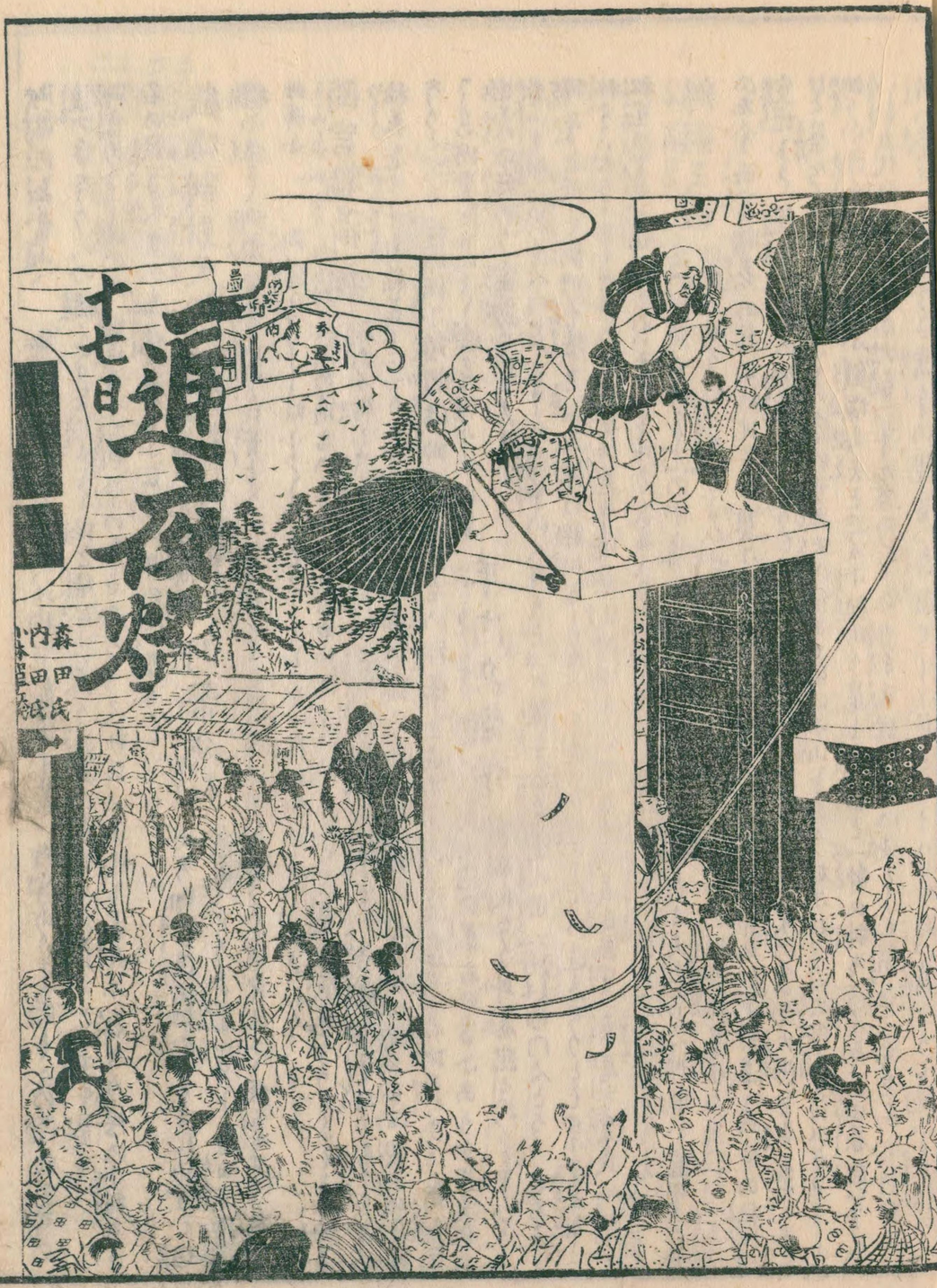
三社大権現社　本堂より艮の方小あり御臣中知ふくふ小ふれ人擔前濱成武成等の靈を配已崇祀則當寺の護法神とす世小三処の護法ともいつ



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

節分會

十七日 通夜灯



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

兵孫平内玄衛
二王座禅像

御城内名葉山
御遷座ありて芸源此神を勧請す芸
御宮あり
後の方ちかうの縮んでを結ひ
御宮あり
則堂のうち井ちかう又社前の石橋も芸像ふねちかう像の小祠ちかう
名の蛭ある大黒のお像いとも小ふ弘法大師の作ちかうといふ
錢塚辨財天祠
同所小あり未詳
例幣使
禮小依り例幣使泰向のと紀昔よりのちかうそ帰路の日ハ
此所小
御宮あり
山門の前右の方ふあり當山北主の神
西宮稲荷祠
祠ある
稲荷を小千束稲荷ととなふ
千束稲荷大明神とあるか大権現公方法親王の法蹟
ちかうといふ像の祠小頓阿法師の祀北人九の神像を安
二王門の茶右の方ふあり平内玄衛
兵孫氏ちかう再度記とめる書ふむり
青山主膳といふ人のお社すて強勇のひとりとぞ云後年石不道人正三鉢木の門人とちかうてちかう
禅学を修ると則此石像も二王座禅の時相ありて平内玄衛と
林すふ大ちかうあやまりちかう移遷傳義寺墳墓夫婦同龕日の
松室堂室毒寺大姉とあれい平内玄衛氏ちかうあやまりけり
辨財天祠
山門の前右の方北の中島小山の上小あり世小老女弘才天と唱ふ神酔ふ慈覚大師
の祀とふいふ仁戸雀をよく紫一本ちかう小
の元今西宮稲荷の神の社北より願ふ小あるよう
空北ふく観音堂至の御像のそありて堂社ハ紫一本ちかう
むと築なる山あるといふふ今の弁才天の社ある石の小山と
招ふ小作島ハ神の北小錢塚弁天といふ小祠あり是も當社と一鮮の神ちかうんをも小田原記をもとひ
小条五代紀等の書小大永二年九月のすふ小条氏総よりの使とて富永三郎左ふ古河の御
所へ参りちかう帰るさ當寺の観音へ参詣せり小折ふ十八日ふれい常よりも深小参詣の人

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

鎌田政清造立六地蔵石燈籠

群集せしより銭湯歩うつありて載籍の人叫喚をとる事幾のおびただしきを以て帰宅するを民綱いとまなきことを記せり

鯨鐘　田所小あり二尺時是を撞く

鐘銘曰寛永丙子歳大
猷院家光公詣當山観音堂見伽藍破壊即命改
作之凡二十餘所又於堂後林中創建東
照宮後僧數歳民屋火起神宮佛閣悉燔燼
命老臣某等營造如初自爾以来日選日往年
風雨所侵寖至敗毀今
大樹幕下美　先公之事起土木之功
田忠昌使十　帛允衛門尉建部昌孝五　帛左衛門尉
三浦義成八　帛右衛門尉嗣國領重清薫匠事
搆之崇彩餙之美仰而可望俯而可欽功
可量哉其樓上所掛之鐘亦破裂困改鑄之備後
牧野成貞喜捨黄金二百兩爲
常執十一時之資糧
鐘銘　並序　治功已成銘曰撞之撃之
殷殷雷轟
衆生一切
種種有聲
音聲種種
何一是物
觸物能鳴
鯨吼忽發
迷夢頓驚
諸苦解脱
悲願維明
元禄五年次壬申八月日
武州豊島郡金龍山浅草寺
權僧正宣存拝撰
別當

石枕　中東中古州五院小あり庭中小小さ沈あり是を焼り沈と号すまさ尚まの付録小さ石の枕あり傳説の文明年中道真朝臣后田圀雑記小生そをもつて尤小茶にて其作をまさるの文章をそ小説を願る俗伴と異のそり旧紀そをそらむ

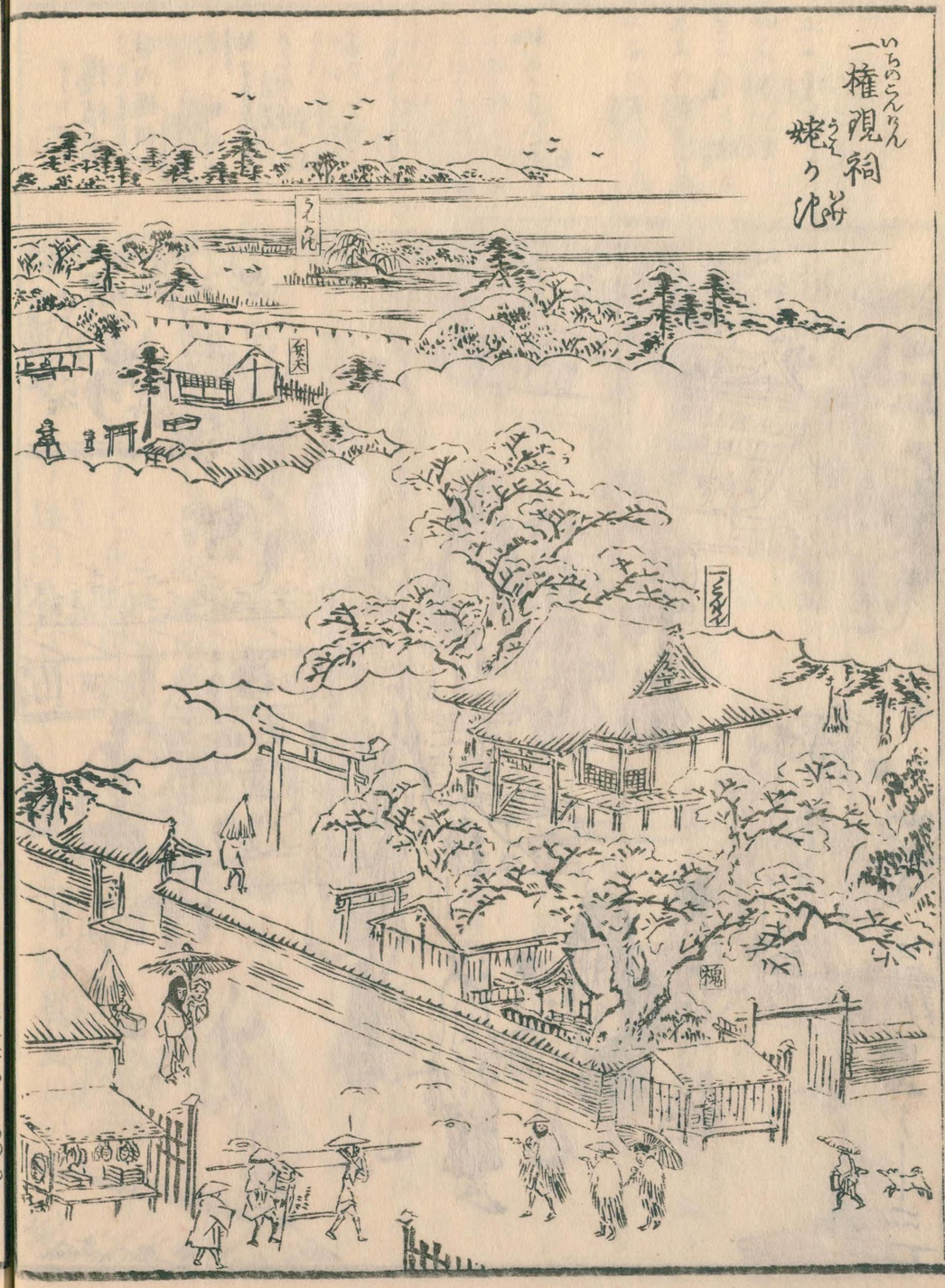
田圀雑記云　此里ふるとそ小石枕といへるゆへんなかゝる石のり其故を尋ねしに中頃の事ぶやありさむらひ娘を一人持つり容色おほるよのつ花そりかの父母娘を遊女小あそて道あさをとぶもむひかの石枕をとそにいさちひて交會のゆへとへとも其まそりり兼てよりあいつの夏ちれい折をもかゝひて彼父母枕のそとに立寄くとも称へそりる男のかうへをうちらたきそ衣装奴下の物を取て一生を送り作りねさるほと小彼娘はやり〳〵忌ひらふやうあるひさまへや幾程もち紀世の中小かゝるゆへさの葉をへて父母ともふ小悪趣小墮へて永劫沈淪とむるのかれへさ先非小恵て悔ても益れへ是より後のそさまへ立夫へて呼給我父母を出へ忠

楊枝店

燒肉楊枝を當く店甚柳屋と称するりめをりて本源とそさねと今い其家号を冨ふるあめくく竟よ地の名産とる五つ僧徒律よ楊枝よ九ッの利あるそを載て云く

一よは若りへ
二よは臭うへ
三よは風を除き
四よは熱を去て
五よは疫をのそく　とあり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



一権現祠　姥ヶ池

きて見むと思ひある時道ゆく人あり立て田の如く出立て彼石小外ゟりいつもの如くも得て頭を打ちたゝり急き物とも取むとく引かつきたる衣をあけて見せんく獨ありなやーくゟひてよくくされい我娘ありむもられまことひてなさまーゟも云ゟれー夫より彼父母をさぶ發んーて度くの悪葉をも悲嘆悔ーて人々の娘の菩提をも深くとむらひまつりくと語伝へるよー古老のくやされいはゝ

ほゝとろのゟりる世もちき石枕さこそかおりし思ふるらめ

當所の寺号淺草まといふる十一面観音ふてまつをまつ

千手イ

霊佛あてまーくゝとちむ

一権現　土人呼頭松院の境内小あり上倍あかむ堂と云往古當寺本尊る観世音出現のことさ

ちり姫ふあろさ堂と唱へしさを後世謬て阿加牟堂と

ゟり傍小觀る影向の槻あり

六地藏石燈籠　雷神門の外荒川戸町の入口角小あり姫小土人呼所の河岸をさーてお地蔵

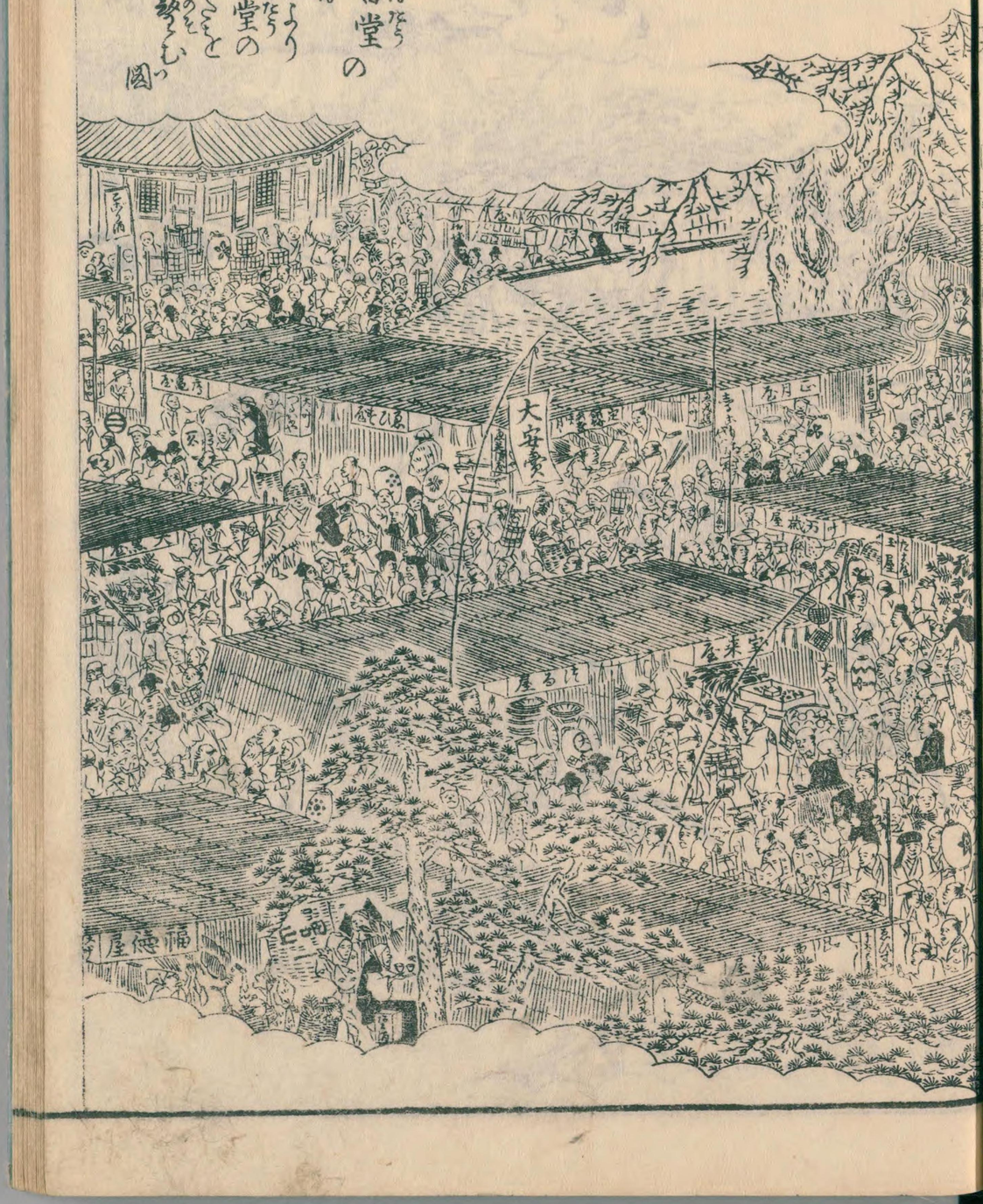
阿岸とゟりくの池い往古より奥列海道の馬次ゟりーとそ其頃ゟんんの

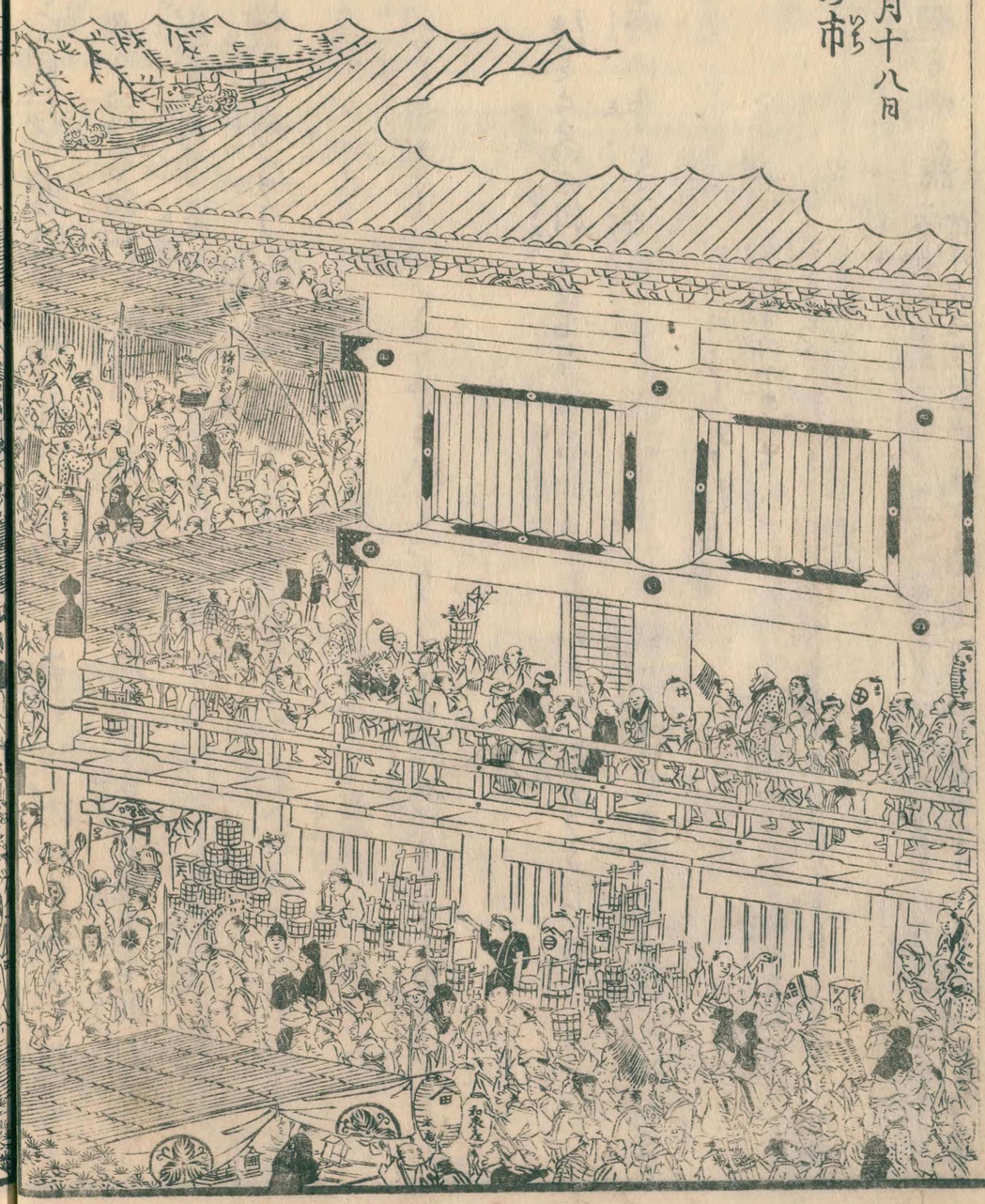
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

十二月十八日
羊の市

観音堂の西面より念佛堂のくゝりを望む図





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

馬市

ここは葛西の馬市にて、
諸国の名馬、
十二月
ここに集まる。
南部の
三閉伊
そこにて売買
せり。

桟敷

桟敷

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

門前猿籠屋町中ゝそは古地にて召燈籠のあるより馬喰の多く住ゆゑ名とす

十二月十八日の市より此辺海草を賣る家〳〵多く近在より集る

仁云久安二年丙寅左馬頭義朝當寺観音〳〵堂造營の時鎌田兵衛正清奉納の

獅猴絵をそうそうる古代の鉾の地券そるを開刻せり

坊舎三十余宇　當寺八淺草第一の精舎にて境内靈神靈佛甚多く技拳小いとまもあら

故小悉く捨遺すと雖も猶現絵をそうそうる古代の鉾の地券そるを開刻せり

專堂坊　齋堂坊　常音坊　此三坊八僕者三人の遠裔にて妻帯ありて相續す則蒲年三月十七日祭れの

時も三人の輩三基の神輿を供奉又三坊のうちより

觀音略縁記牛王宝印等を出せり

當寺南の總門より左右小風雷の二神を安置せり

雷神門　〳〵寛政の今再建ありて昔小猶せり

額　金龍山　曼珠院二品良尚親王真蹟

本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知といつる人故あ

て此地小流浪　日本紀曰垂仁天皇二十一年野見宿祢小姉八天穂日命十四世の孫ありと小ひつ

陀佛云中知祭加登茂又登岐奈利とも訓ともいつり　家臣檜熊濱成武成と云二人の兄弟附添て王従三

人恒ゝ漁獵を産業とし〳〵小年月を送りり　檜熊或村前小作ゝ新撰姓氏録

小作ゝ可ゝ〳〵ん古と續日本後記小村前舎人直由加麻呂武蔵國加美郡の人ゝ〳〵七去師氏と從を国

すとあり又延喜式兵部省儲虫る牛の牧の中うも武蔵國村前馬牧とあり是等ゝよふと

八濱成武成も此國の人ゝ〳〵ん欤

同三十六年戊子二月十八日の朝碧落小雲消て蒼溟小

風静ゝもゝれい小舟小乗〳〵此所の沖小生て網をやをゝ　淺草川むり〳〵旧海ゝちり〳〵

遊興ゝさゝゝかれく幾度も同〳〵観音大士のそる像のそかを陽ゝ

異浦小至りてもいよ〳〵志かり倦て主従絞ゝそゝ是を奉持〳〵〳〵帰を

機縁の淺ゝさゝるを忌て其家小安すといへとも唯眞興の探小雑ゝそ

を忘ゝくのそ　世小草刈の童集つゝ琴をひつゝ伐の御堂を造ゝといゝそゝ縁起小所見ちり

多年て一宇の香堂を経営り彼尊像をそ

後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日霊告あり

夫より田緑七度小及といへとも幸そゝい自ゝ火焔を発生

是累年ゝ地ハ漁獵殺生を業とそ汚穢の所ゝれい焼除てそゝ垢の霊場とゝさんゝ

ハ幸そる示現ありゝとを依ゝ　後久ゝ堂宇破壊小をよひ〳〵を孝徳天皇大化え

年乙己勝海上人東行の次適そ小未て再営す　則當まの定山と称ゝとのとき

て奇異の霊告をかうむり夫より　天慶五年壬寅安房守平公雅　勝海上人幸そるの冤容を拝し

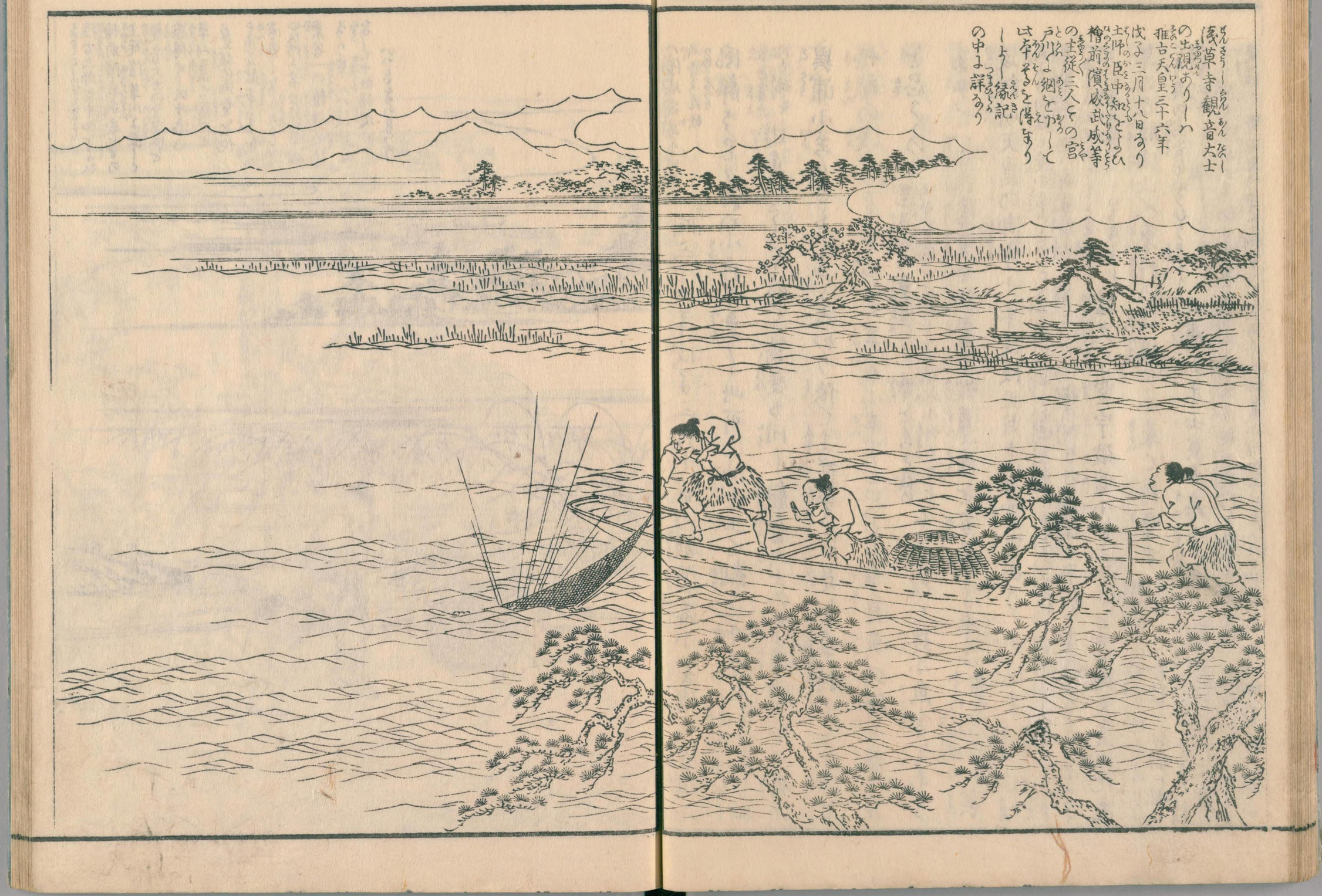
己降秘佛とそて拝するうち

よりて前大平記巻六巻小菊原秀卿平親王将門を誅する功小ようゝ天慶三年三月廿九日

武藏下野両國の守小任せらゝとあり又図書小図四年七月十六日前謀ゝあり　将門純友誅戮の時も

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

浅草寺観音大士
の出現あり…
推古天皇三十六年
戊子三月十八日より
土師の氏中知といふ人
檜前濱成武成等
の主従三人その宮
戸川より網をかけて
はや引揚るを待
…ようす縁記
の中に詳なり



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

往古土師臣中知宿禰
檜前濱成武成等の
主従 草川より
観音大士の霊像を
感得 吹地の
草川 集て
彼の御堂を
東谷一の権現の
後 社
なり 十社権現と
いつさまつるもの

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

両度の戦ひ小軍功あるを以て武蔵守小任ぜられ一の国五年の労任限満ちて重務小かくを以て辛を依く雅を守国の守小任ぜらるゝことあり名雅い常陸大掾国香の苗上總介良兼の長男ろくを平将門を誅ろく切腹あ
ろ一六郎名連 當寺小詣當国の大守たるむ度を新求すらくもろくて辻任一
此国の守とるゝれい霊験の空かりけるをあ
樓門経蔵法華常行六所の社壇 六所の社壇 いまる考へを造ろ一田園数百町を附して長く龍
葵の暁を期むむ 又長久二年辛巳十二月廿二日大地震動一ろく佛客頼例 遥小後白河院兼暫
三年己未十二月廿日堂塔回禄す其時本尊小造営す
なの兼徳二年戊寅二月藤原成實四箇年の間當国を津任一猶重任の聖
めろく新願一霊験あり依代々宰相龍の田畑を尋くえの如く皆施入一奉
桜小大系図小源成實とこ一へ武蔵介小
るありたるあろう小藤原とある小誤るへ一 其後左馬頭源義朝當寺く秦請あるこく
堂塔を修営一彼坤の榎を以新く観音の像を彫刻して納らる 其像今内陣
奉行鎌田名国政清と書分くり吸東順礼記小康治年中義朝當寺観音一
戸六地蔵の石燈籠の路小文安二年丙寅とあろと鎌田兵衛の建ろうとふう依く抜ろ小康治より久安
ろくろろ小五年の間あれいろも政清命をうけく
番請のまをつくとうろ一ろの事あるを一
ろく佛閣を修営す治兼四年庚子十月十七日 又仁安三年戊子用舜法印大衆小同心
縁起小八月十七日とあろ小誤りて十七日小小
約を初宗徒のくく小牧判官兼隆ら諮ふ

盛衰記をよく糸紛物語等の書小せうり石橋山の戦ひも同廿日のうつていまさ妻政の
國一もろくさろ先あれい頼朝當寺一泰請あろ小ふかあくと又盛衰記小依義四年九月十日武衛武蔵下總
の境ろろ松戸の庄市川小着たまふと東漸ろ小依兼に年十月二日武衛を井
隅田の両河を渡らくとあれば八月十七日とすろろおぼえる猶ろ
ろく田園若干を寄附せらる是平家追罰の新願小依くろり策久三年辛巳
ろ禅尼政子二品及相加武加両刺史殺信濃布千端を寄附ありまる伏見院
像一軀と白毫の綾羅の帳一ろれ信濃布千端 伏見院
御宇正應二年己丑十月廿一日大補聖とのくく 伝門甚須堂宇の破壊を歎十
方小勧進一て正安二年庚子三月十八日修営落成す其後建武年中将軍
尊氏鎮西發向の折ふく夢想小依く當寺観音一願書をとめら是国観音
三年壬辰 今年文和と改えあり 武蔵野合戦小も兼て勝
南氏の正平七年ろう 国二月廿日 縁起小三月廿日と
利あらんを新願ありて合戦の後美田を寄らる 永和に年戊午十二月十二日御墨画福
至く田畝九度小をよくり其後嘉慶元年丁卯修行の聖
定像ろる者勧進の功を募て為永小ひろう建立成就せり 大
上す其須相加小田原の城主北条氏綱當国を領一られい破壊の諸堂再
奥ありく大伽藍とへ 夫より後天文四年乙未八月十八日癸
天文八年己亥五月十八日
冨松田盛秀等の名を佳一ひの是幸文の意小合せり又知足軒

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

文山翁の謚を和年中追の榜札を此例に越の堪主大道寺駿河守是を奉行すとあり又北条鎌倉遠山丹波守のまるあり又其師忠海上人と云ふ伊丹三河守のまるのり三ほす宿願の事ありて鎌倉へ退居し夫より東叡山小属を當寺を建立ありし大神君御信仰最篤く依て寺領若干を附せられ寛永十九年二月十九日田緑の後も慶安三年庚寅六月三日手釿をめぐらし堂塔御建立ありしより

二品の名産と美味

二品を此の名産と美味すぐれ是を賞せり鰻鱸蜆も又佳品とす

浅草川

隅田河の下流すべて舊名を宮戸川と呼ぶ白魚紫鯉の

錦繪筆を南の店軒をならべそを他郷の人に

錦繪筆を南の店軒をならべそを他郷の人に至りて甚繁昌を志るべし

茶釜

茶釜湧中最香奥深く形の類殊小にして手遊

抑當寺の一千百七十有余年を経の古

抑當寺の一千百七十有余年を経の古刹にして實に日域無雙の靈場とするところ

散華の勤行怠る事なし朝より夕に至る

散華の勤行怠る事なく世に知所なり常に金鈴玉磬の響絶す焼香

寛永小日域無雙の靈

寛永小日域無雙の靈場にして終夜誦経念

咒怠慢なく又境内賣物の数多き中も

咒怠慢なく又境内賣物の数多き中も錦袋圓淺草餅揚枝楊枝五倍

茶筌湧中最香奥深く形の類殊小

茶筌湧中最香奥深く形の類殊小にして手遊

錦繪筆を南の店軒をならべそを他郷の人に

錦繪筆を南の店軒をならべそを他郷の人に至りて甚繁昌を志るべし

浅草川

隅田河の下流すべて舊名を宮戸川と呼ぶ白魚紫鯉の

二品を此の名産と美味

二品を此の名産と美味すぐれ是を賞せり鰻鱸蜆も又佳品とす

忠善上人を以て別當職とせ

忠善上人を以て別當職とせられ誠に無雙の靈場となるところ

多羅尼會

多羅尼會 同十二日より十日間

千日參

千日參 七月十日より四万六千日に當る

節分會

節分會 此日節分の守札を出し題を受講ありて堂

指柝

指柝 毎年六月十九日執行ふ此日も三月十七日の如く本堂の前

年の市

年の市 毎年十二月十七日十八日の両日のみ開く假屋を設け住連飾蓬莱飾物等すべて當年の賀物を賣買す淺草大通りより群集す珠更境内に尽すの比なし

祭禮

祭禮 隔年三月十八日より三日の神輿を本堂にうつし捐柝獅子等あり當日は神輿を淺草の大通りを渡し淺草橋より

除夜

除夜より正月六日まで

牛王加持

牛王加持 同九日巳の刻執行ふ同日三社權現の社前より流鏑馬あり

修正會

修正會 一七日の間昼夜

温座

温座にて修行す

市

市 同日辺在の農民夫養を持ち来り帰農の節小乗に帰農の形

養

養

此例に越の

此例に越の榜札を出し此外の

文山翁の

文山翁の謚を和年中追

駿河守

駿河守

北条鎌

北条鎌

伊丹三

伊丹三

相續

相續

鎌倉へ

鎌倉へ

大神君

大神君

田緑

田緑

公より

公より

誠に

誠に

権現

権現

古例

古例

遠近

遠近

行ふ

行ふ

浅草

浅草

古刹

古刹

日域

日域

霊験

霊験

近郊

近郊

貴賤

貴賤

境内

境内

餅

餅

楊枝

楊枝

淺草

淺草

繁昌

繁昌

古奈

古奈

屋戸

屋戸

盛衰

盛衰

源平

源平

頼朝

頼朝

西國

西國

往古

往古

名所

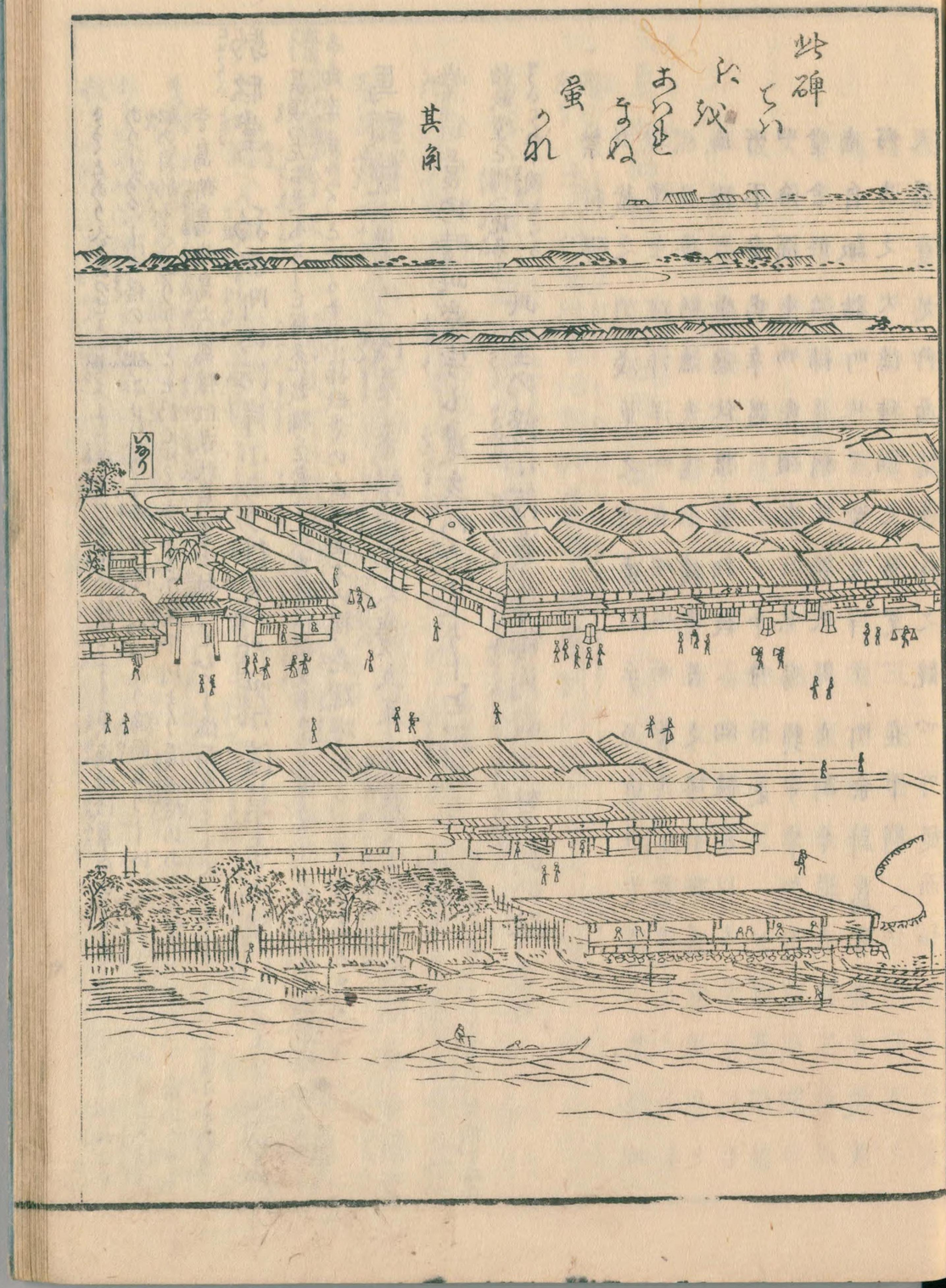
名所

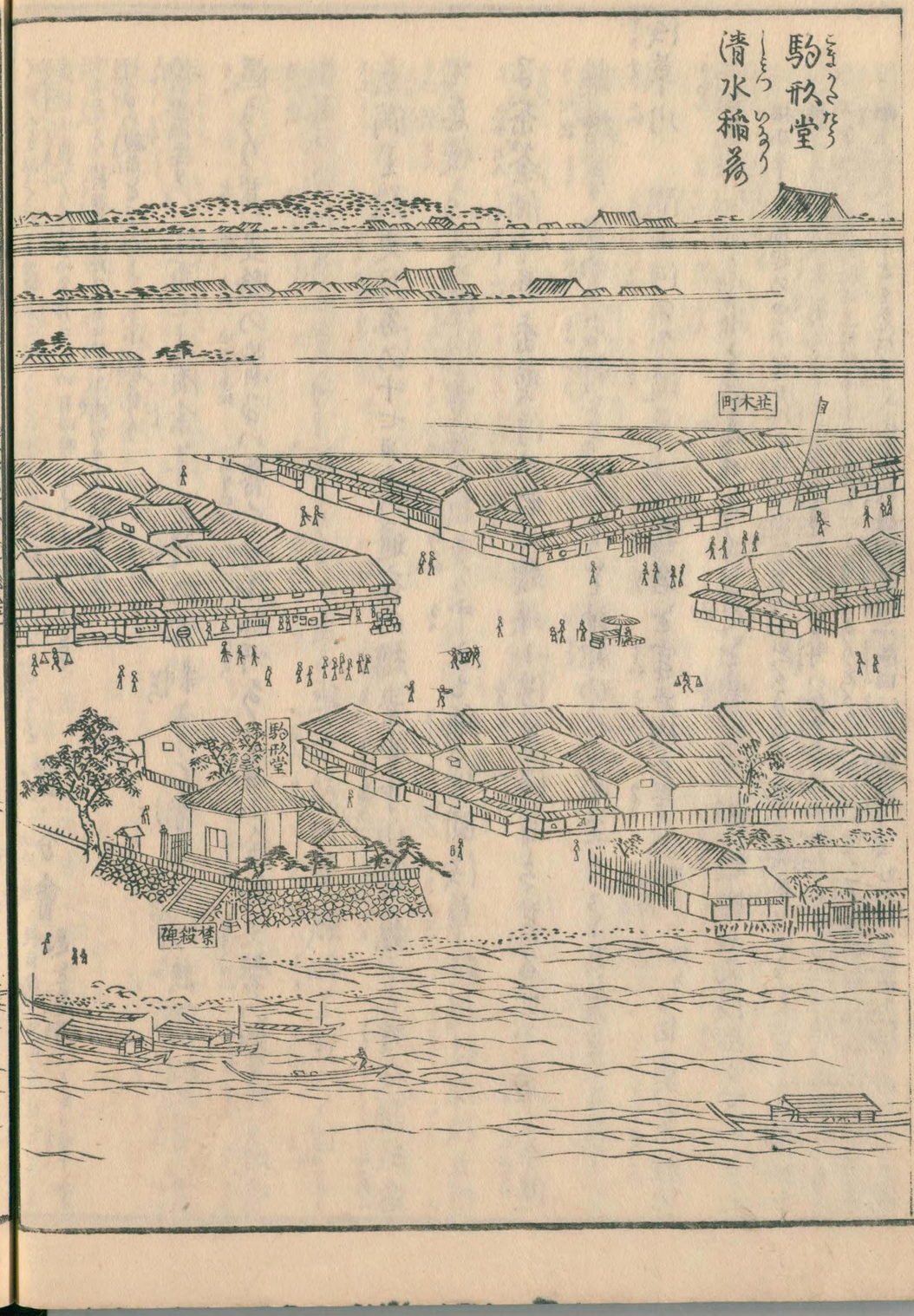
渡

渡

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

さるとあり今めぐらく教ふまち往古の石濱のあらよう東
ありくるへ一丈倍のに碑小甚むり一本呼深川のあらう海面るり一次ハ今の筆大山の伸より入津の
船の目的あるくめりくとそ仍てまる老ある小木下川より頂田村のあるりを限るとり一南のうさそ
寺島柳島牛島大島猿江永代島うと柿一てむり一海
駒形堂　駒形町のこの岸小あり往古ハ此一所小淺草寺の總門あるとり一といの
其頃ハ左右並木あり一と橘花松株を栽なるく春時ハ殊更あるやも深うり一るや寛永二年の
印本東やうとある書小駒形堂の近辺並木の橋花煙燭たるよう一をまるとり
馬頭觀音あり淺草寺縁起小天慶五年安房守平公雅胤草寺觀音
堂造營の時此堂宇も建立ありくようを記とり
駒形堂と唱へ一ハ名もまるられ小因おこる　此堂の傍小淺草寺領内殺生禁斷の碑あり

禁殺碑
武藏之州淺草之川遠出乎源近注干海大悲薩埵
現像魚跡洋洋如在昭昭而著其爲靈境亦已尚矣
然慈事釣漁夭傷水族寃苦之惨不勝哀愍腥臭之
臧固可厭惡伏惟霊刹數回祿蓋以大悲爲此有
所不安也幸遇今時不玉兼洪運仁慧
四海深重物命禮崇三宝菊興寺宇於是去歲闔寺
堂舍修治補葺猶如新成因玆制令嚴戒殺生乃以
南自諏訪町北至聖天岸十町余計爲界嗚呼盛哉
好生之大德種福之勝業一在干斯人主之
天恩意足仰而望菩薩之觀心可從而知區區愚衰
感仰有餘乃爲銘曰
維斯一心即見三千　以我則乖以觀則圓
鱗介異類好惡同然詐恐殘殺不知哀憐
營生嗜味速禍取愆畏報於後思戒於肯
文明遇時慈悲如天綱罟作禁　魚鼈無度
豈但物命因慈得全　敎化所及
元祿第六歲次昭陽作噩春三月　弊習能愎
武州豊島郡金龍山淺草寺權僧正宣存誌

三島明神社　駒形町の西二丁ありり小祭神大山祇命一座　伊豫の國風
積ふく土人伝云往古伊野部某本國豫州の
みくく風波の難小逢仍本國一宮の御神小祈を奉りくに着岸
せくく神恩を報奉らむう為茅宅の地小勸請あり一由昔ハ今吉坂本小あり
を元祿年中今の地へ遷さる　其旧地東叡山の東の
麓根岸村小あり　祭礼ハ毎歳五月十五日なり

清水稲荷社　駒形町小あり往古嘉兼年中弘法大師東國遊化のさ
に此國へ入ぬくく須霊告小よりくく如意宝珠を神鉢とく稲荷小勸請一た
まふとそ　其地より清泉涌出る故小清水の名あり其後谷中感應寺の持とあり法華の勸請と
あり一寒松院構のうちとあり今清水門と号るも其旧地をいふ別当を妙行院といふ旧地ハ東叡山の西のくく
芸ふこの地小うつされさう捜るに元祿二年冠板の江戸惣鹿子という草紙小谷中稲荷清水今ハ地せ

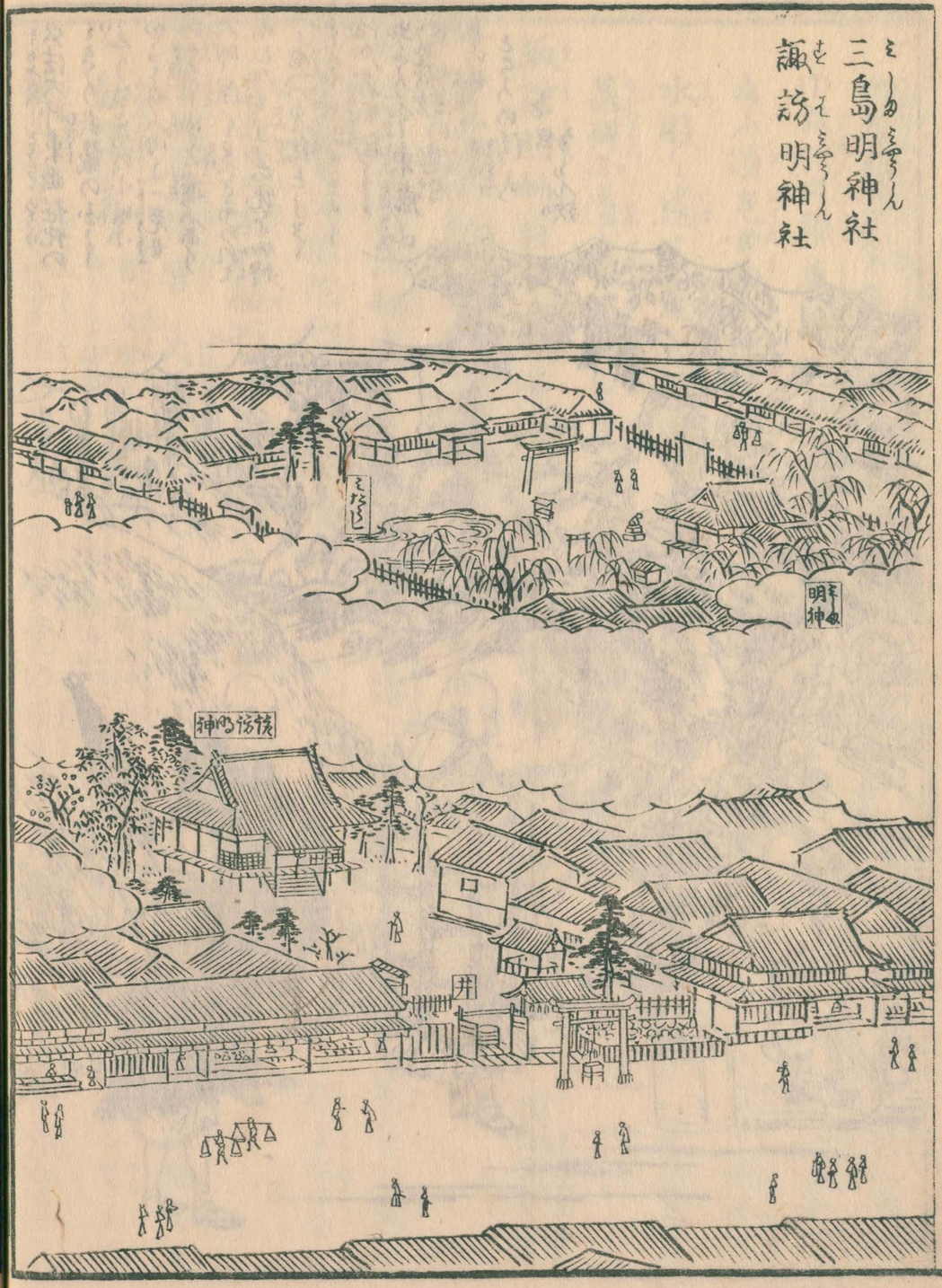
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

弘法大師東國巡化の
をり武藏の國
ひとつの小嶋
一老女
のもとに水を運よあり
大師深く是をあはれみ
めぐみたまふ其の地を加持
一の名水となり
清泉涌出するゆゑ
江戸名水記
虫さう今東叡山
寒松院の境内
再の林の小ほこら
ところの
を云

まとあれいえ縁の願まくは其清水涌然うてあらしむ今世
行道此発地と称まる地の吉合よう流出いづる清水あることを
小弘法大師東國遊化の砌武藏國
ぬふ頃老女の水桶を戴て行あり大師彼の
水ゆく遠く是を汲由まうしゝれい大師憐を
其所小清泉涌出を其傍小當社を勧請しあひたまふと
諏訪明神社　同所詫方町小あり祭神ハ信州の諏方小同じく健御名方命
をまつる社の権輿ハ至て久遠まして未由等詳ならず
椎寺　同所黒船町小あり浄土宗にて増上寺小屬す此中山正覚寺と號す
本尊阿弥陀如来ハ恵心僧都の作なり
名ある大木の椎ありしゆゑ故小号とすと云ふ
石清水正八幡宮　大倉前小あり元禄五年　台命小仍て石清水正八幡宮を
勧請ぜり　昔ハ文殊院の八幡と称し高野山行人方の僧住職
あり一ら祓ありしゆゑ其地を改られ石清水正八幡宮を勧請ぜり　別當を大護院と号し雄
徳山と云花山幸沼法印ありし護摩堂の本尊なりハ五大明王にて運慶の作なり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

三島明神社
諏訪明神社



閻魔堂　八幡宮より南の方弐三丁を隔つ称光山長延寺と号ず本尊閻羅王
の運慶の作なり其丈壹丈六尺あり額小閻王殿といるか延享年中未聘韓
人の筆なり當寺の慈覚大師草創ありしと時昔ハ下野國小あり一を文永年
中此地へ迁すとそ或説小昔の震ら災小あり一を國初の頃る發所へ
後後いまの地へひろくとそ
詣群集す

奪衣婆像　運慶の作なりそ本尊
閻王と同木なりとそ
化馬地蔵尊　昔徳をまの作昔ハ紀の那智山小あり一とそ
昔佛去を悲傷せり一女あり是を化度せんらむ小
ちに化し一く彼女を佛道小
帰入せりめものし一とそん
元山観世音　元山院深く観音薩捶をそ信し一めし生の遺の普門品大悲
佛眼上人そて感眼供養せしめ法皇ろう一観音の大陀羅尼等の於巻をりく大悲の像を作し一せあり
せめんし一そ像るり故ありて東叡山よりそ小移し一奉る是則及佛の権変ろり當ま境内よ文永十一年の
古墳
あとそ

祇園社　同所閻魔堂の南小隣る當社牛頭天王ハ天暦年中の鎮座りとそ
大倉前の總鎮守小一て別當を大円寺と号ん
十王堂　境内小あり慶長十八年又寛文御建立あり一とそん
十王の像を安置せり
地蔵菩薩　左右小冥府十王
銀杏八幡宮　同所福井町よあり傳く云當社ハ永萬二年源頼義朝臣ろ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

正覚寺
一名 櫻まち
八幡宮

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

御厩河岸陵

義家朝臣奥州下向の時と小至りたまふ河上より銀杏木の流れ来るあり則義家公手ずから拾ひ上げ折言て曰朝敵退治勝利あらば此樹すこやかに枝葉を栄へとゝのひ逸よ其軍勝利ありて凱陣の時々くひとまゐりかなら枝葉栄々と八幡宮を勧請しまひしと其昔八幡塚と唱へりとぞ神木の銀杏樹の延享二年の秋暴風に吹折て今いさゝか其枯株を存せり

等六天神社　浅草橋のかよより昔八大倉前森田町ふりし頃享保比年火災の後今の地へ移る祭神面足尊惶根尊なり

天神六代の神より祭れり毎歳六月六日祭礼

篠塚稲荷社　當地の向ふ新田家臣篠塚伊賀守當社城伝

社古ふして茅葺の宮なり

御厩一晩ま八通し七社の創ま庵室を結ひて住もりしと云り

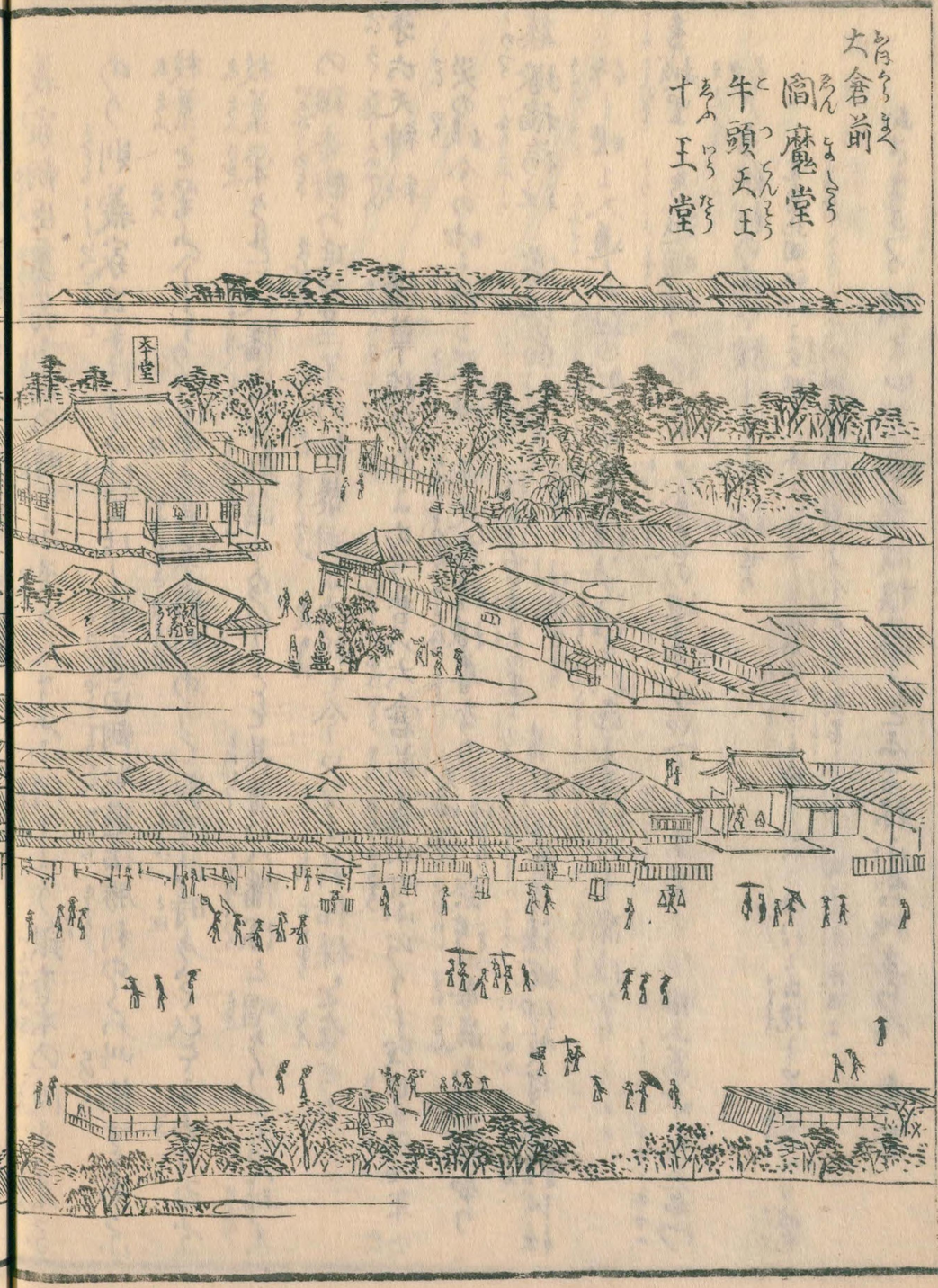
多越里　多越明神の辺より大倉前の辺まてといふ小家分限帳ふ萬水善九郎

江戸多越村の内を領するをもて記せり

竜恵北国紀行ま文明十八年十二月廿三日隅田河の辺を経といへる海村を名境とめる窮ひり被宅ま善やとりして岡林まありあるを金光寺ま竜恵同十九年元日ま

おさまるとろ波をかけるや荒井根の雪ぐと志ま称小善ぬ五らん　竜恵

大倉前
淵龐堂
牛頭天王
十王堂



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

牛頭天王御祭禮

氏子中

牛頭天王御祭禮

きちんえのさくらんこ
祇園會篠囃子
毎歳六月八日の曉
是を修めし氏子の
家々くまなくさゝらみを
製し悪く篠の枝
小ほこけく是を軒前
に供をかよ諸人
爭ひ受をとり持て
家内に收め疫癘を除く
の守護
となり

暮ふりやうりのくといそく日ふれも寝ず行鳥越乃里　道真准后

鳥越明神社

元鳥越町よあり此邊の産土神とす祭神日本武尊相殿天兒屋根命なり

昔は第六天神熟田明神を合せ祭り鳥越三所明神と号けしが正保二年此地公用のあり召上られ三宮ともに熟田町へ遷し第六天の社の地をかりを残さるその頃より熟田町三宮の地といふ一第六天の裏田町といふもこゝとぞ

當社は最古跡なれとも舊記等散失して勸請の年暦未詳ならず

東光山西福寺

良雲院と号く　良雲院殿奉る故よ院号とぞ

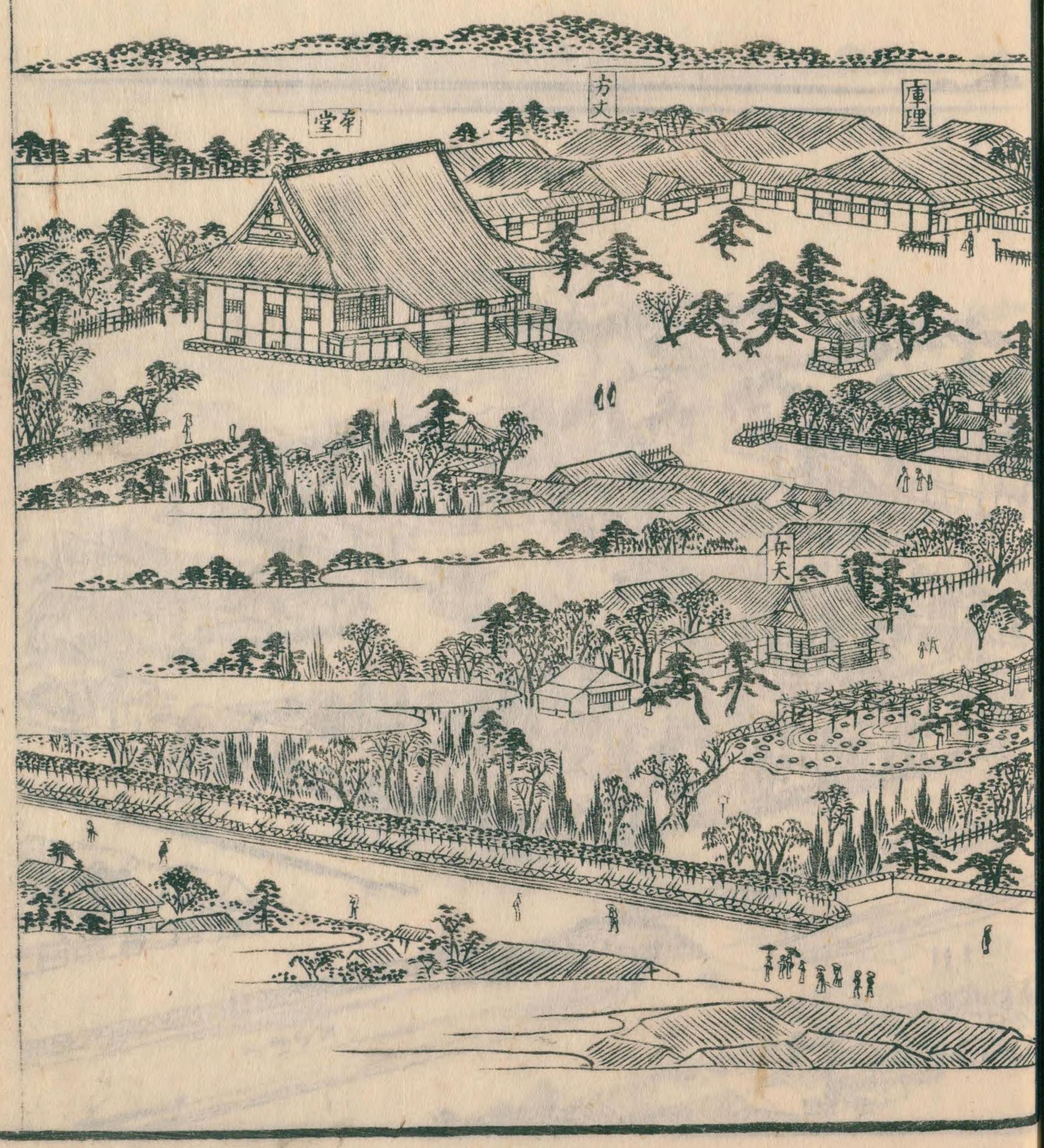
御尊骸を當寺に葬る　御墓所あり

鳥越明神より三町ばかり東の方にあり江戸淨宗四ヶ寺の隨一にて本尊阿弥陀如来は七日小家を遠方より渡り戦死の迷魂得脱の師あり迷魂得脱の功は武文の戦功神祖

松平の御称号并山号

台命よ依て當國駿河墓小祠されど又寛永十五年今の所よて地を賜ふ一基中法幢を立檀林小淮也

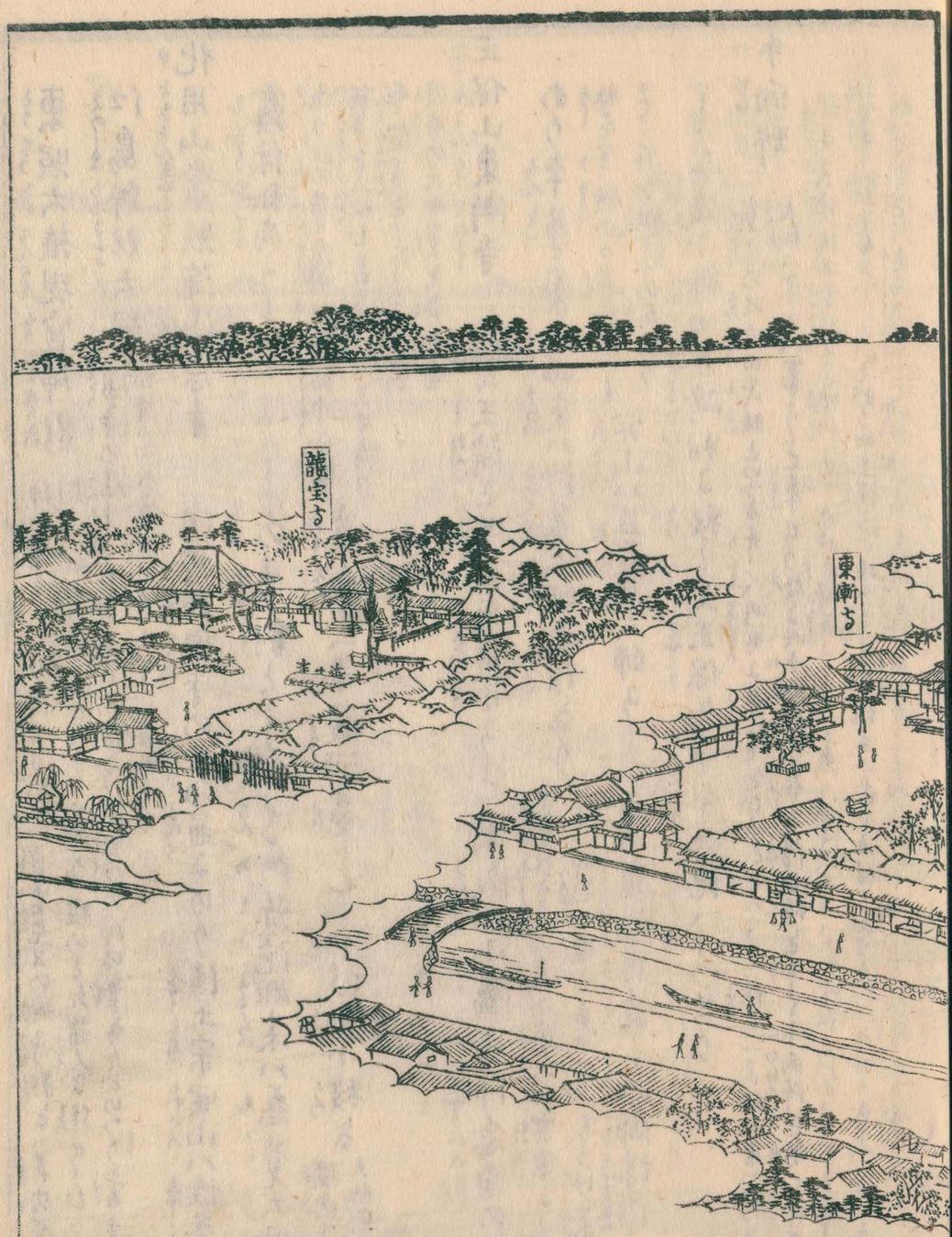
さゝい 西福寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

新堀湯
浄念寺
東漸寺
龍寶寺



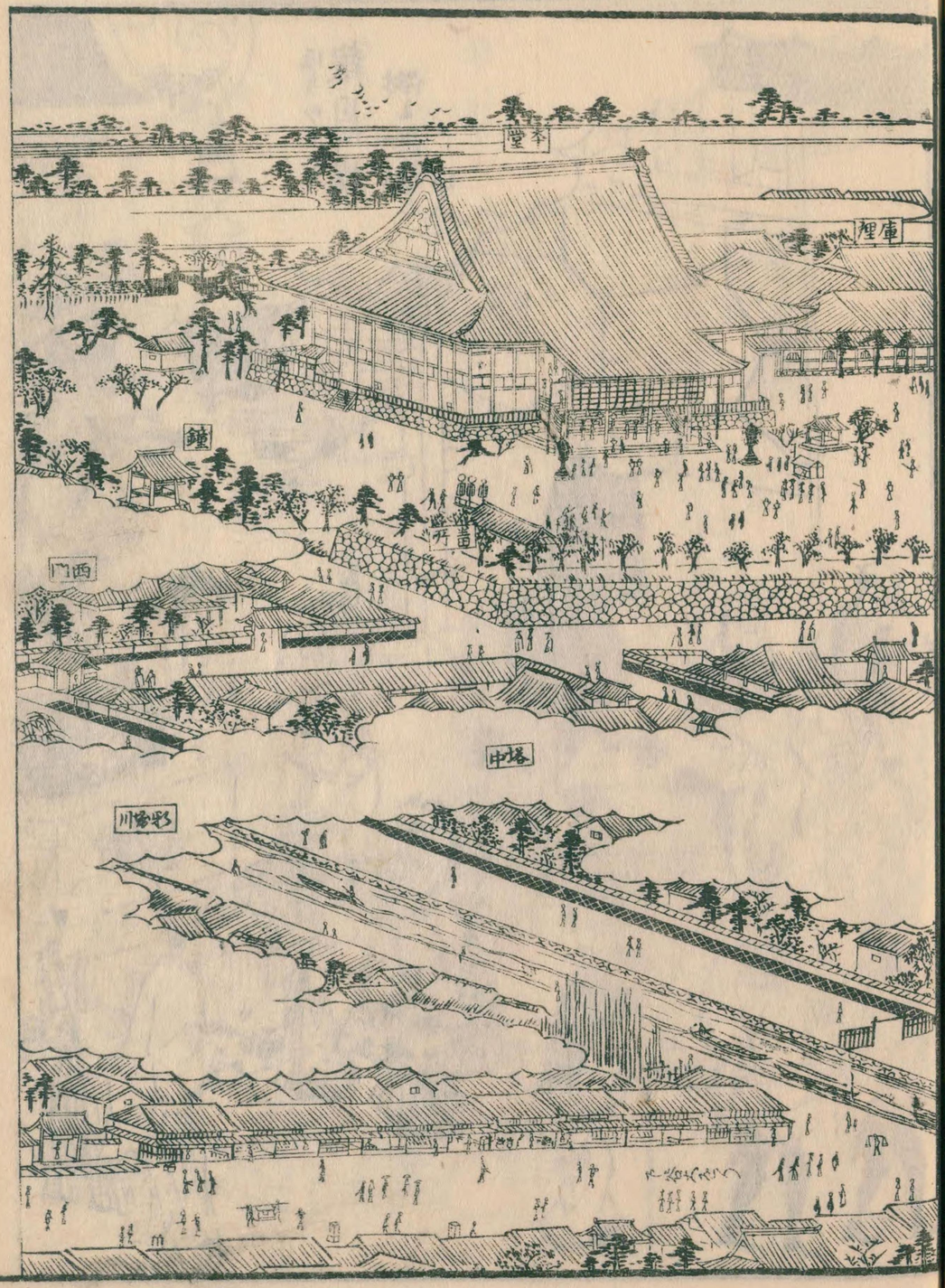
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

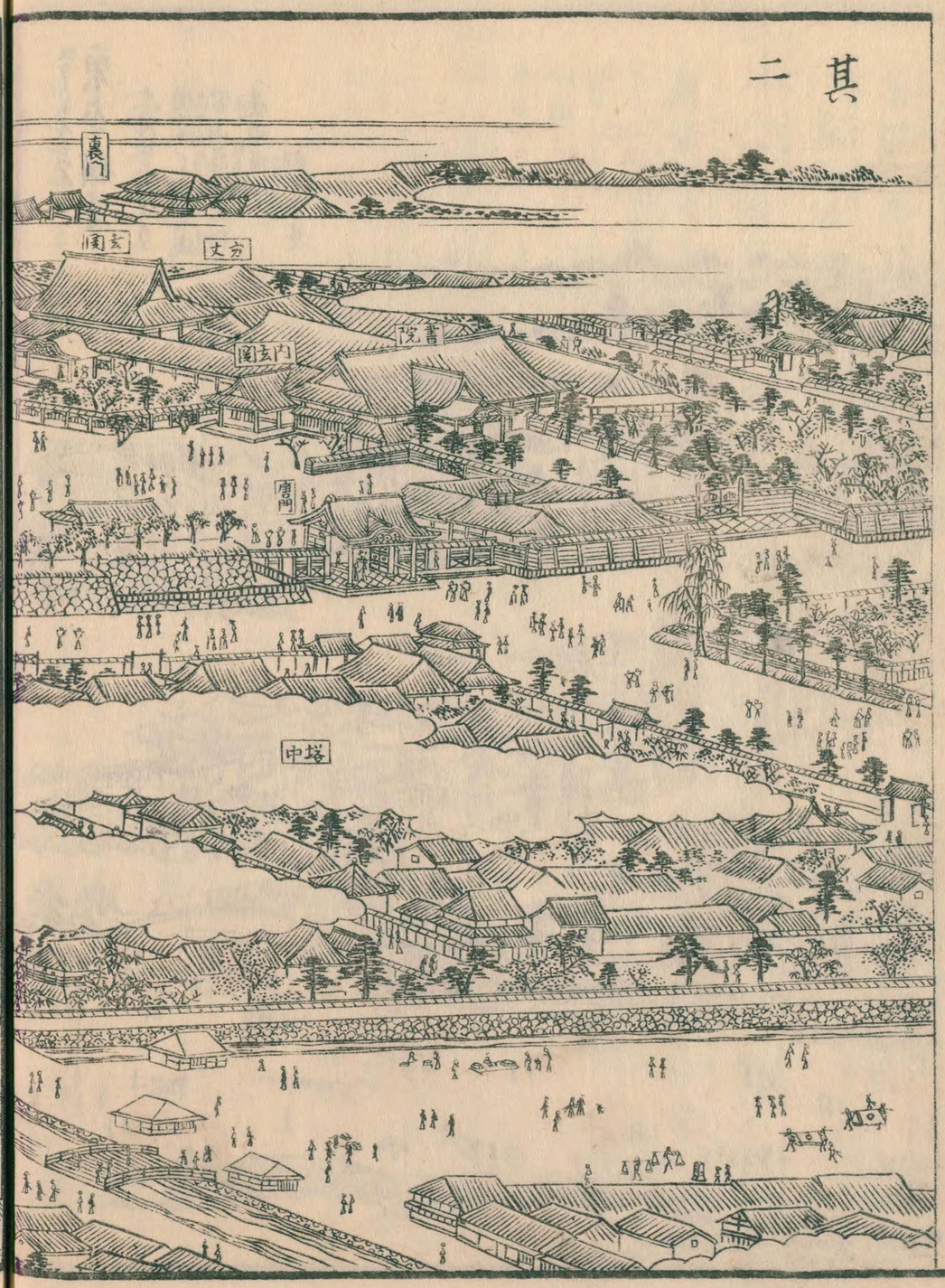
東照大権現宮神影　神祖甚よ　徳公及び　良雲尼公の御寿影をもあひ
仁島弁財天祠　當寺の境内の北の通よりあり浄土宗冠山の性誉上人
化用山常照院浄念寺　同所西福寺の
露休和尚うつす永禄年中の草創とそ
正保山東漸寺　醫王院と号く天台宗うつて東叡山小屬を浄念寺の北小
あり本尊薬師如来の行基大師の作る
手向野　寛文の比戸田茂睡といふる者人此所を草庵をむすひ
記せり　天和二年十八箇所とさだめ此手向所小祠を傍に碑をたて
そこを後小神田芝高村より移して又正保年中今の地へうつせり

東本願寺

十月廿二日より
同じく廿七日迄
冠山忌にそ
徒の道俗
群参を

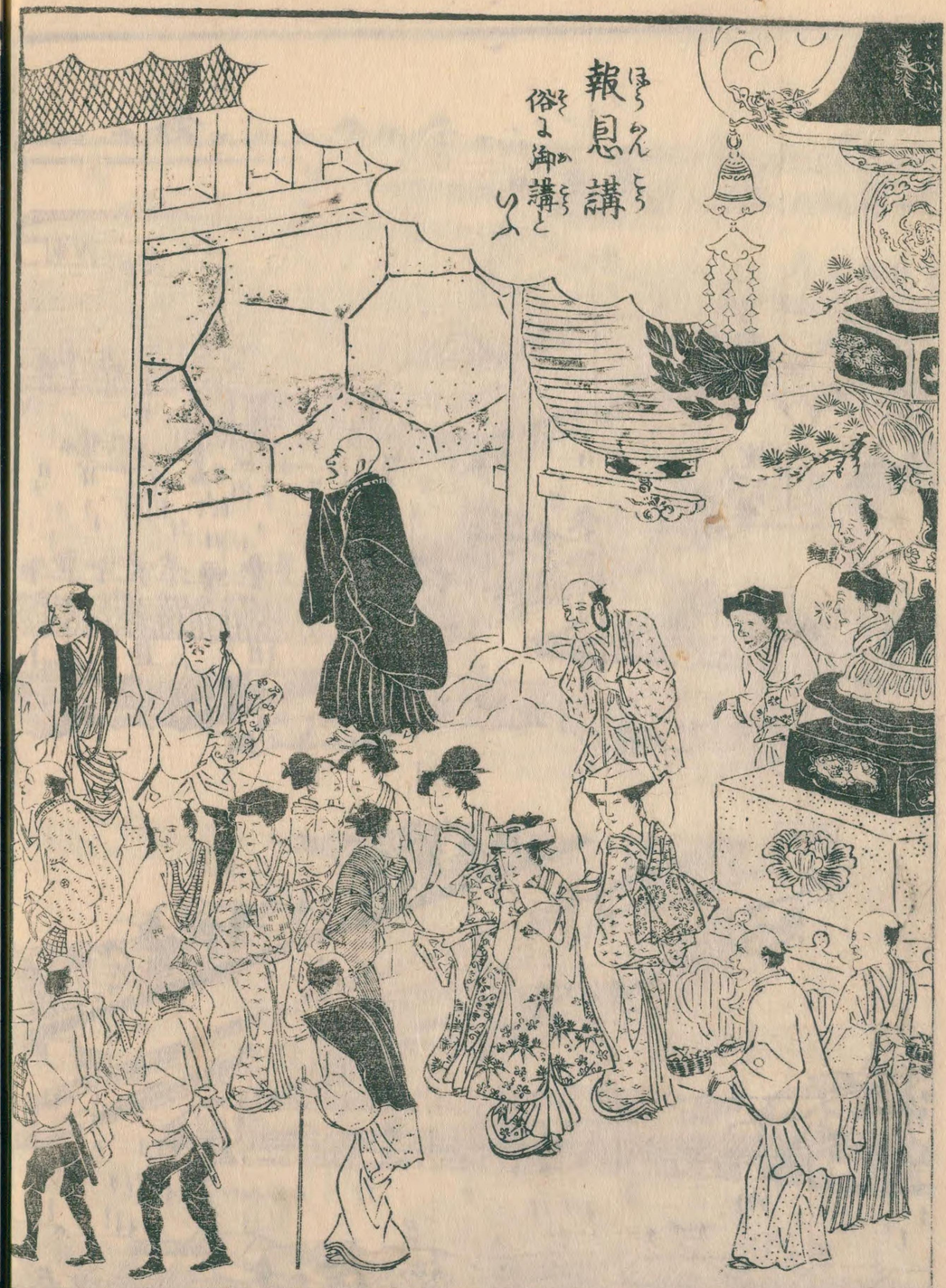
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用





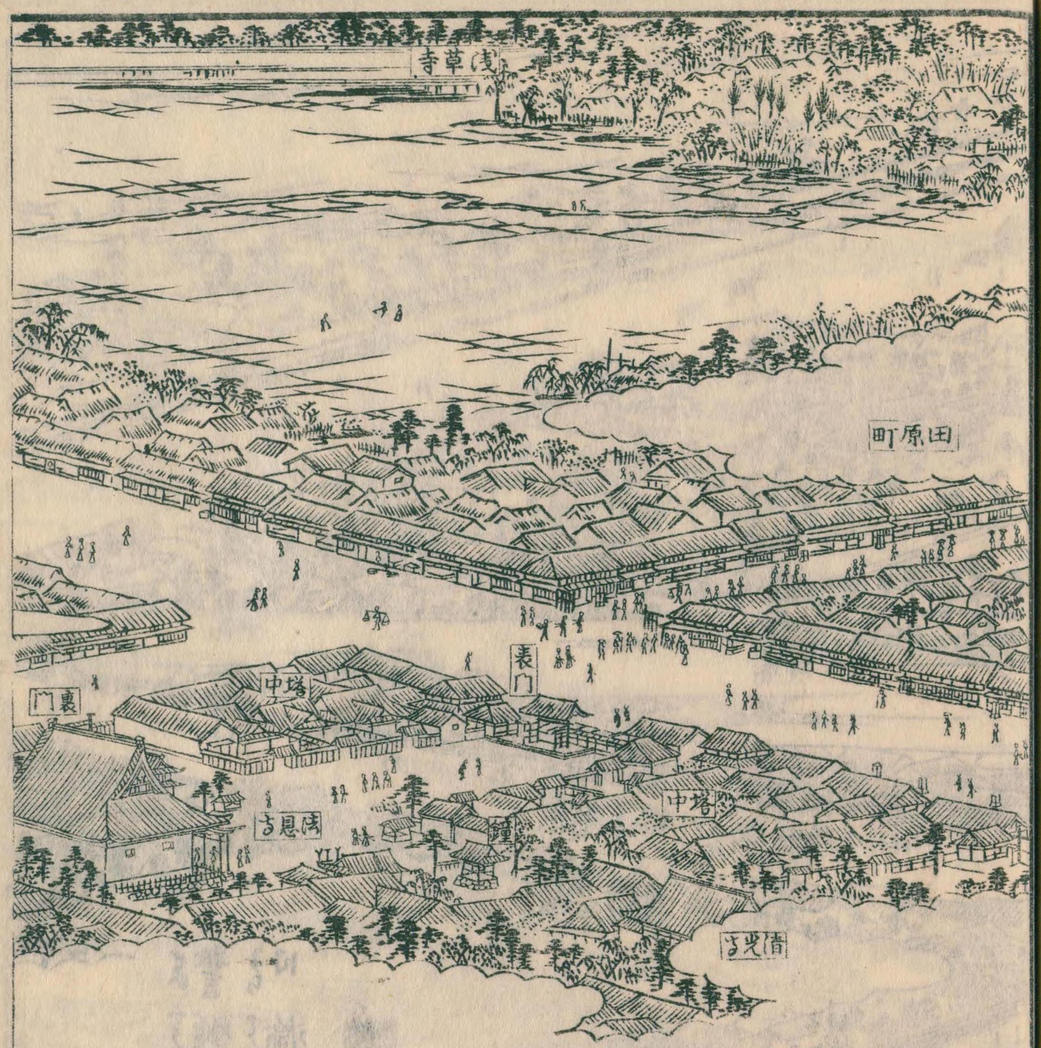
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

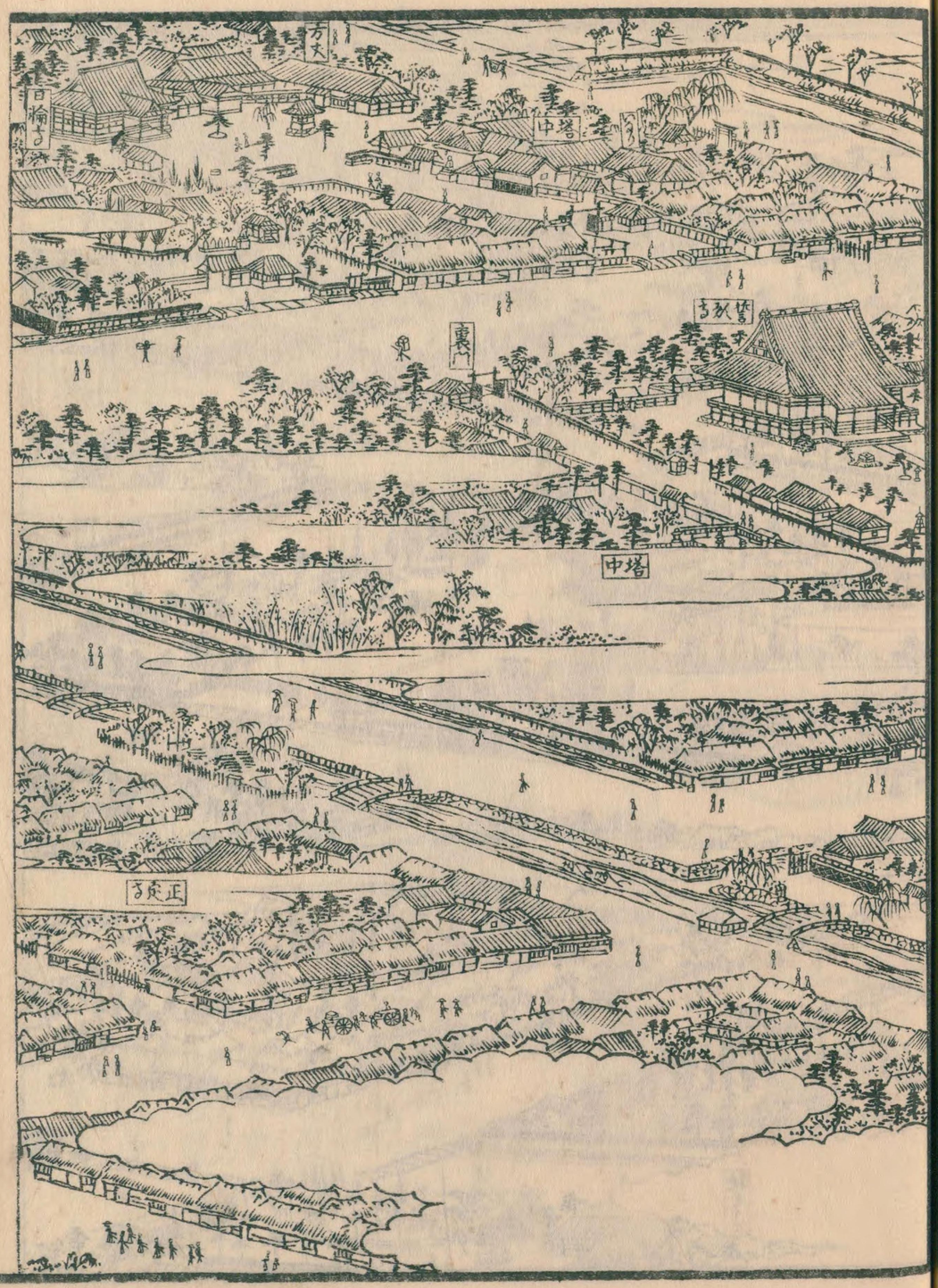


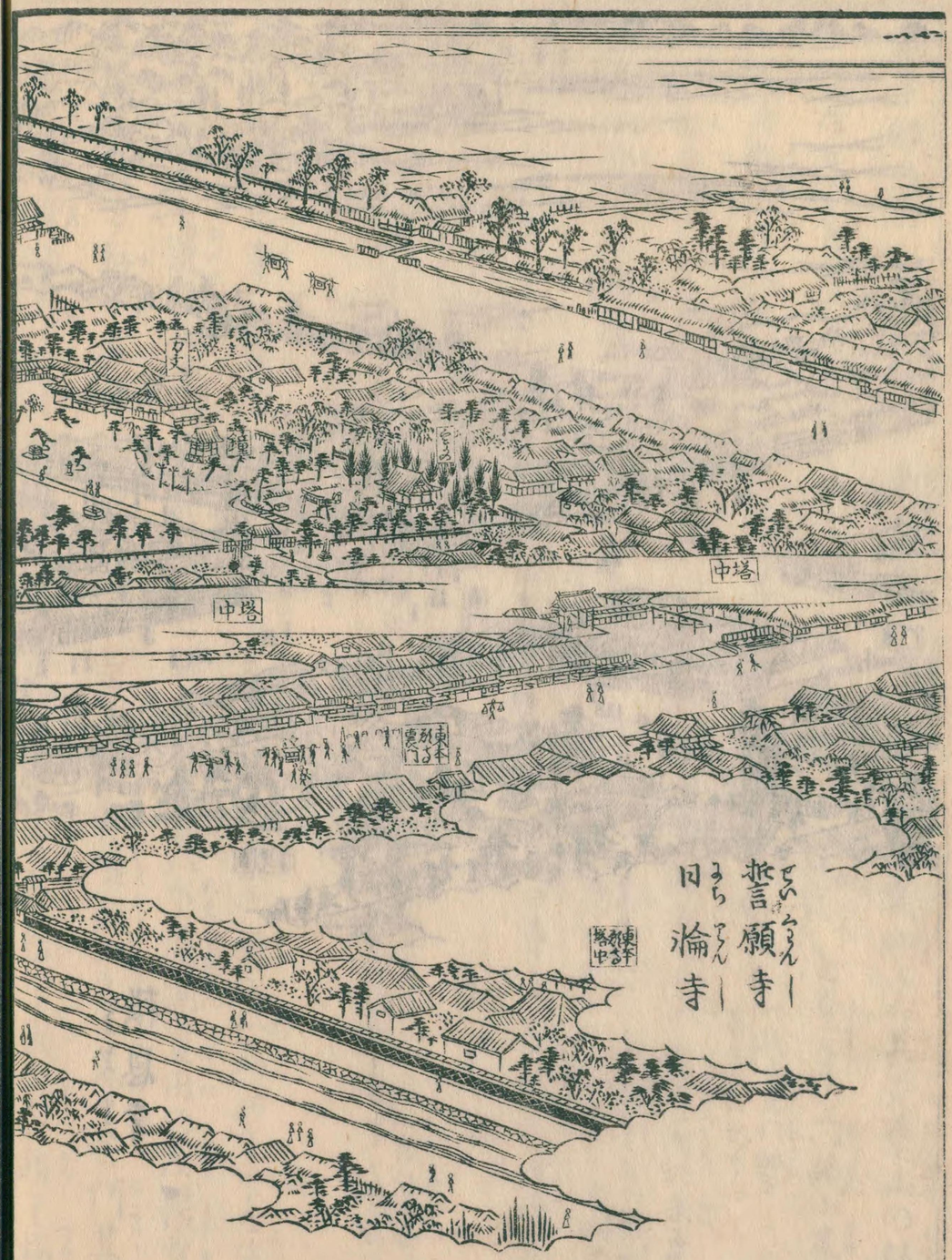
東本願寺

新堀端大通ふあり宍山教如上人其先本山の住職たるを豊臣家のをり〳〵ひとゝせ順如上人教如上人の舎弟を本寺の門跡小定めらるゝ教如上人を故るゝ退隠ちゝめ裏屋舗小至れゝを此故よ東門跡を裏方といふ神祖竟ふ召出され宍祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の末そ新よ御堂屋舗及〻〻賜る夫より後東西とわかる一ヶ条通走〻京都よりの輪番呼とゝのりの戸中の門徒を其後江戸よ末寺建立あり支中其地今日日本橋の外加賀屋敷と唱る呼こ明暦の後今の地小移されゝり御旅館とゝのる

立花會　毎年七月七日裏行ゝ茶詰の人よ名物を詩ゝ宍山忌　毎年十月廿二日より同廿八日まゝくの間續往説法等ありて門徒の貴賤群参せり

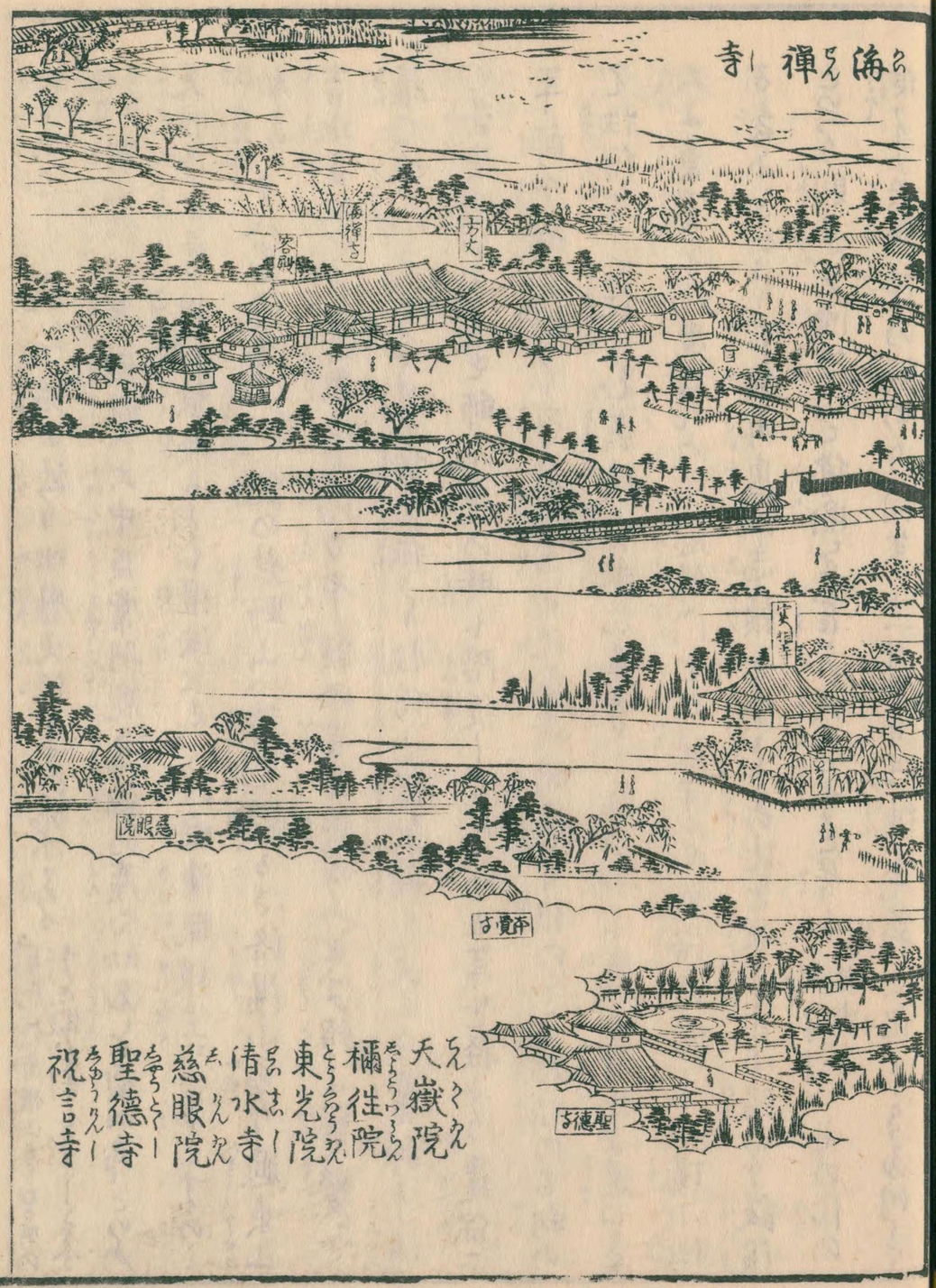
高龍山報恩寺　謝徳院と号ゝ東本願寺の東小隣る一向宗祖上人の遺跡二十四輩所の随一ゝり當寺ハ總國豊田の左横曽根よ有〻数十世後結諄の城主七島左衛門晴朝の臣多賀谷何某といふる者の為よ寺領田宅を等ゝを押領せゝを終ゝ武州よ移ゝ檜

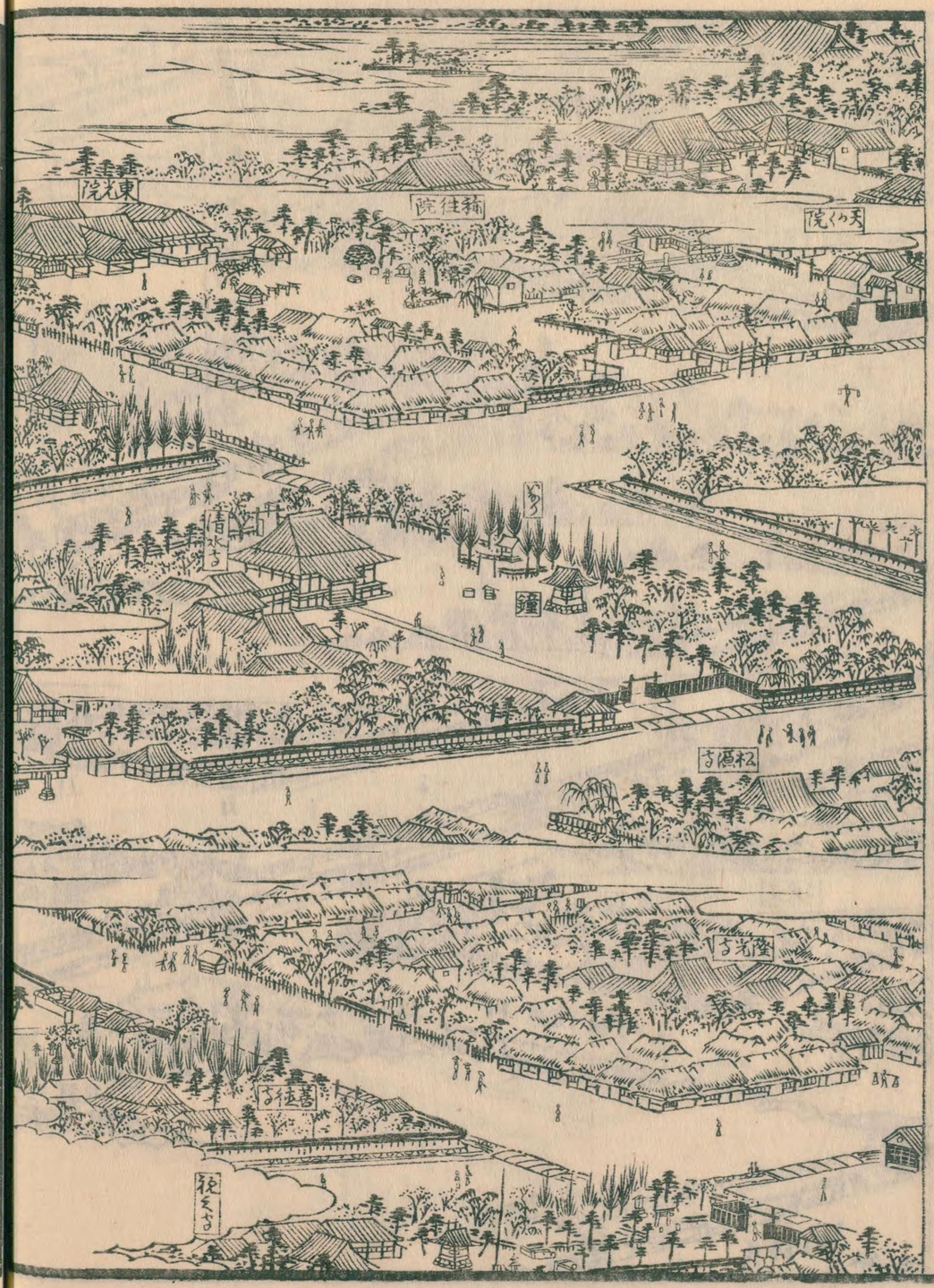




国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

田小あり〳〵の後八丁堀へ移り明暦火後今の地に移る舊地樓曽根ふくなる所の猶存　宗山性信房俗姓は大中臣常則鹿島郡の産ゝ幼名を與四郎といふ天性多力勇悍心狼戻あり〳〵禮法を事とするのみ唯漁猟殺生を事とするのゝ悪ん鼻こいよ十八歳の春　紀の熊野山へ詣〳〵歸るさ洛陽小ゐり適東山吉水に祖ひ〳〵法然上人化力卒願の旨を說あるを頭より髪を薙て佛門にいるゝを願ひ依〳〵性信と名を授く夫より鳶師り隨て晝夜側をさらず師左遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二年師小總に往〳〵大に群生を化せり同國横曽根のさと朽敗の古刹あるを性信をして住しむ其後貞永元年竟に師の命小應じ彼地に逗つゝ大に東冥を化度ちんとし一念佛門を弘通するや道俗充滿し〳〵場小溢るゝをひ〳〵古刹再興の志願を企〳〵甚地を求むこゝ沼あり飯沼と云り則是を湮埋して佛閣を營み報恩寺と号す則當寺の權輿なり側に天満神の祠あり同年十一月七日此神老翁と化し〳〵

此時紫の戸帳一重を裳裟の料まゐらす　又天福元年正月十日此神何某の夢小告〳〵曰く是より後永く師資の禮讓として御手洗の鯉魚を捕て師小贈る師も又曇を謝ちんが爲報恩寺へ〳〵と云依鯉魚二喉を前小鏡餅二枚を供へ此賜答の例今に至る迄二喉を報恩寺へ送返礼として鏡餅を供へ則彼地に天満宮の神前へ供へ〳〵怠慢なし毎歳正月十日飯沼天神の御手洗の同廿五日初連哥を奥行〳〵後鏡餅を宝化祥の例とす

あつて奥州山中に自過去生の枯骨伏得たり　其地に寺を營て法徳寺と号す中古淸泉の禪宗に改め光徳寺と号す

画上〳〵詳なり　竟建治元年七月十七日下總にをひ〳〵寂を示せ化壽八十九　以上常山住の要を摘て記せ

寺寶　親鸞上人壽像　左に描るを持〳〵たり此像のさと高祖より謂〳〵東國潮家に化ちへるものとぞ　自彫刻あり〳〵性信よあ〳〵られし六十三歳の影像なりとぞ

牟尊名號　同九字名號　同宗祖上人の真蹟なり　珠數一連　親鸞上人より性信坊へ與へ延生椋の實の念珠なり

去生骨　夢想より依〳〵奥州志摩郡山中より得るところの枯骨なり　親鸞上人の真蹟なり貞永元年の作なり

教行信證一部六巻　牟上人帰洛のとき性信坊へ贈る所の作なり

屬あり〳〵とを今猶當寺に傳ふ〳〵あり　蛇叉釵　性信是を退ん〳〵とするよりかれ〳〵空く年月をへ根の古院より住もる頃其沼より悪龍すじて漸もすれば害をなす斗なり僧一人未だ山門の僧熟睨を時より沈中より悪龍生〳〵彼悪龍を防ぐ又懐中より釵を出〳〵

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

出門の金剛力士ふるく悪龍を伏中より蹴返すと傳ふ性信此鯨を見るに偖を清く見よと件の
鯨を諭す性信ふたゝび金剛力士の足跡土より漫ろ湧出ると也性信鯨を退けんとせしを
雲よぶして常加三俣の水中より入後の災を證智此亡尼よりあづかる小袋を
俣よりあらはし〳〵頂更うして逆浪起ると既より船を覆さんとす時より其ま鉦自在ふく水中より入るよ前の悪龍水中より
浪さらさらとうちかへりて向ふ又舟よ来〳〵とするよりあらはし〳〵
あらわれ彼ま鉦頭よりあり尼是を得て帰る是より後守して蛇及の鉦とゝもに
茶入 袋ハ二重蔓唐織 笈 細代ふく繋を性信坊の僧ふ不るゝとゝより其余図扇幡四ふくの仏菩薩の
田島山誓願寺 快楽院と号く東牟願寺の北よあり浄土宗江戸四ヶ寺の一
室ふて冠山の見蓮社東誉上人ふり牟る弥陀如来の安阿弥の作ふて
世よ歯吹如来と称ゝり傳云往古建仁三年十二月廿八日え祖円光大師室ふ
在〳〵て集會念佛の時金像の弥陀尊佛堂の扉障小映現〳〵頂更ふて
没ゑ大師感嘆〳〵て乃佛立安阿弥よ命〳〵て彼尊容を写〳〵御長三尺ふ
彫刻ゝむ自冠眼あゑて常よ持念〳〵ふ因三年十月十五日彼る像恩
赴と〳〵てはを冠ゑ音を發〳〵親〳〵ふ大師よ十念を授ゑふ示未面門遂
小啓歯微露ゑ息を吹語を發するの状よ髣髴時の人称〳〵て歯吹
の尊像と云 〳〵ふ語燈録をふ明遍僧都の偽状等ふ
大師の滅後勢観ふ源

縁起よ小松内府重盛公の帰依ふ備中守平朝臣師盛の息ふゝとを又幡随意上人
行化傳よ依智上人ふ洛陽智恩ふ第二世ふゝとあり 負應の

智上人

ふ〳〵め高野山よ常行念佛の道場を創起〳〵蓮華三昧院と号〳〵
彼る像を傳持〳〵て牟るゝとゝを竟よ安永の未故ありそゝふ小殺〳〵ふ
ふゝるゝとゝを

當寺往昔相加小内原よあり〳〵を天正十八年 台命よ依ふ當国ふ
ほさ礼文禄元年牟銀町壹丁目よゝひて地ふ〳〵寺地を賜ふ又慶長のころ
神田須田町〳〵移さん明暦の火後浅草ふ〳〵智地を賜ふ元禄中用誉龍
岳上人国家を蒙を常榮長を禍る尓ま未を降檀林の中ふり住職す則
當寺の規摸とゝり

神田山日輪寺 芝崎道場と号を誓願寺の北の方よあり牟尊阿弥陀
如来ハ安阿弥の作ふり當寺ふ時宗ふ〳〵て當国弘法最初の道場とゝ
清浄光寺ふ属ふり 冠山真教坊ハ一遍上人第二世ふて往古諸国遊化の頂安国豊
嶋郡芝崎村よあふ小祠〳〵ふゝふの美祠あり 神田明神是ふり今の神田橋御門ふ
の返舊名を芝崎特とゝり

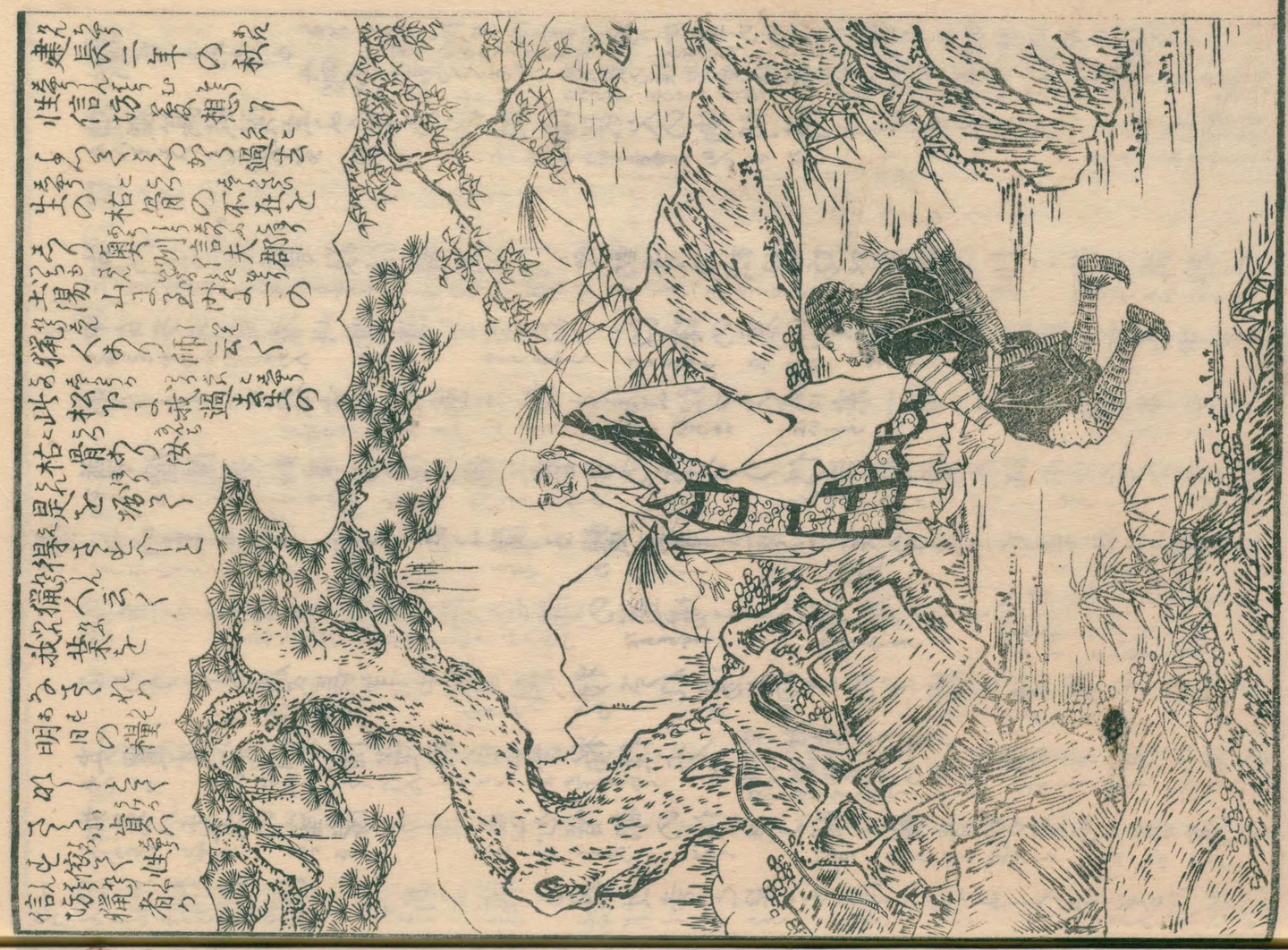
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

傍ら一宇の草庵を結び芝崎道場と号す 當寺の權輿なり 其後おもくの星霜を
経て慶長年中神田明神の殿門臺に遷され當寺は柳原のもとの地を
賜ふ又明暦の頃今の地に移る 神田明神祭禮執行の時は當寺上人以下衆僧皆社
頭に參りて誦経念佛等種々の役法ありて後神輿を渡し
奉ること當寺住職其所上人は勅當御連平の御連衆なり
光明山天嶽院 遍照寺と号す 日輪寺の西に隣る 浄社の法嶺なりて天正
年中善空上人草創を開山は圓蓮社滿譽上人と号せり 本尊木嶋觀世
音菩薩は唐佛なりて順徳帝建保年中相州鎌倉鶴岡の社僧良真傳都
入宋の時盲玉山能仁寺より將来せる像なりを其後豊玉岡の幕か
津田勝重とのる者此像を感得を息え重伊賀國牛島と云所より漁此
霊像の告ありて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ必依人民伏しそ
ゑ島殿と称を其後え重當國より越さしに須故ありて當寺に收むれ則ち
内よる島え重の墳墓あり當寺舊は淺草橋のうちにありしを明暦
回禄の後此地に移る

一心山禰往院 同西に隣る捨世寺と号を浄土宗にして本尊阿弥陀
如来は丈六の座像にて恵心僧都の作る脇に観音勢至の二菩薩を
安置す 冠山は幡蓮社白譽称往上人 姓は飯田氏下総の野州
宇都宮の人なり 當寺昔は小岡原
にありしを慶長年中當國へ移され湯島より地を賜ふ後移今の地に
引越しより捨世一流當行念佛の道場にして殊勝なり
藥王山東光院 同く西に隣る醫王寺と号を天台にして東叡山に屬す本
尊瑠璃光如来の像は佛立春日の作なり 伝云慈覚大師當寺を草創
ありしとそ往古は顯密二教ともに弘まりて台宗一百八箇寺の總本寺たり
中古右内道潅此霊像を崇敬しに堵の鬼門に置又其後慶長年中日光
御門主一品尊敬法親王山門より動寺の松林坊賢海法印に仰て再興ぜ

む

神祖其昔院主に命ありて堵長久の御祈禱として正五九月小大般若経轉
讀せしめらる 此例今もかはらず慶長の頃近所常盤橋の北にありしを其後小傳馬町へ移る其地
をさして今も俗に茶師堂のとよび俵草の地へ寺を移ちしを明暦回禄の後



我が猟が得を見て柘に此る猟りせんと生きん性をう長ら
信んとて明ある日もさ其人んさせんと骨らを拾ひあり
猟なく貧うく種そ
命の性ら
信と柘と松骨らを得ん既も
猟り師し発ち其を石ら皆き持ち
人ん見りうれ前をのれ
猟なく貧うく種そ
命の性ら
信と柘と松骨らを得ん既も
猟り師し発ち其を石ら皆き持ち
人ん見りうれ前をのれ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

大雄山海禅寺　同所新堀の小川を隔て西の方よあり称名寺派の禅宗にして江戸四箇寺の一なり往古平親王将門總州相馬郡よあって草創する所の佛刹なりされと将門亡るの後年を歴て荒廃よをよびされり猟鬼の栖となるりしを慶長の頃覚印和尚再興して寺を江府陽島の地小祠なりし其頃

神祖和尚の道徳を宰して尊敬あり後ち寺院も輪奐となりて宗流殊よ盛なり

清水寺観世音菩薩　海禅寺の向ふ新堀端よあり昔ハ浅草橋の内よあり明暦回禄の後今の地よ遷されしよう

ふるい明暦火後今の地ようつさる寺を江北山清水寺と号と天長年中慈覚大師ひとつの勝地を求め天台法流の一院を建立ありてこれかく一刀三禮をもって千手大悲の像を作りおさめ奉そると甚昔の佛閣荒廃をるく巍々たりしよ年去年未を星霜を歴をくよ堂塔大よ破壊せしを文禄年間慶圓法印とのる此霊告夢得て厳山正覚坊の探題豪威僧正と相謀て堂宇を復営し昔よ復せり

上野太子堂　同所北の方坤の方よあり寺を用明山と徳寺と号す浄土宗よして本尊聖徳太子像小御自作ありとの天皇御悩の時太子神明佛陀よ祈誓し給ふ至孝の誠を擢んよより御悩速よ平愈まします許實のため自ら作らせられの御年十六歳の御影像ありとて

上人念佛弘通のため此霊像を守護奉そて冥東よりて埜根澤よ一宇の精舎を建立と又房総よ作の御体内吹上と称する八其旧地ぐ

祐和尚中興一台宗を改めて浄家となる慶長の頃馬喰町馬場の辺小祠なりし明暦の後今の地よ引移たり当寺門の内よ地蔵尊の石像あり相州一澤木食弾誓上人の作にて当山十七世の住僧霊告よよって土中を穿出地髙るそ其背面よ件の肯趣を鐫す

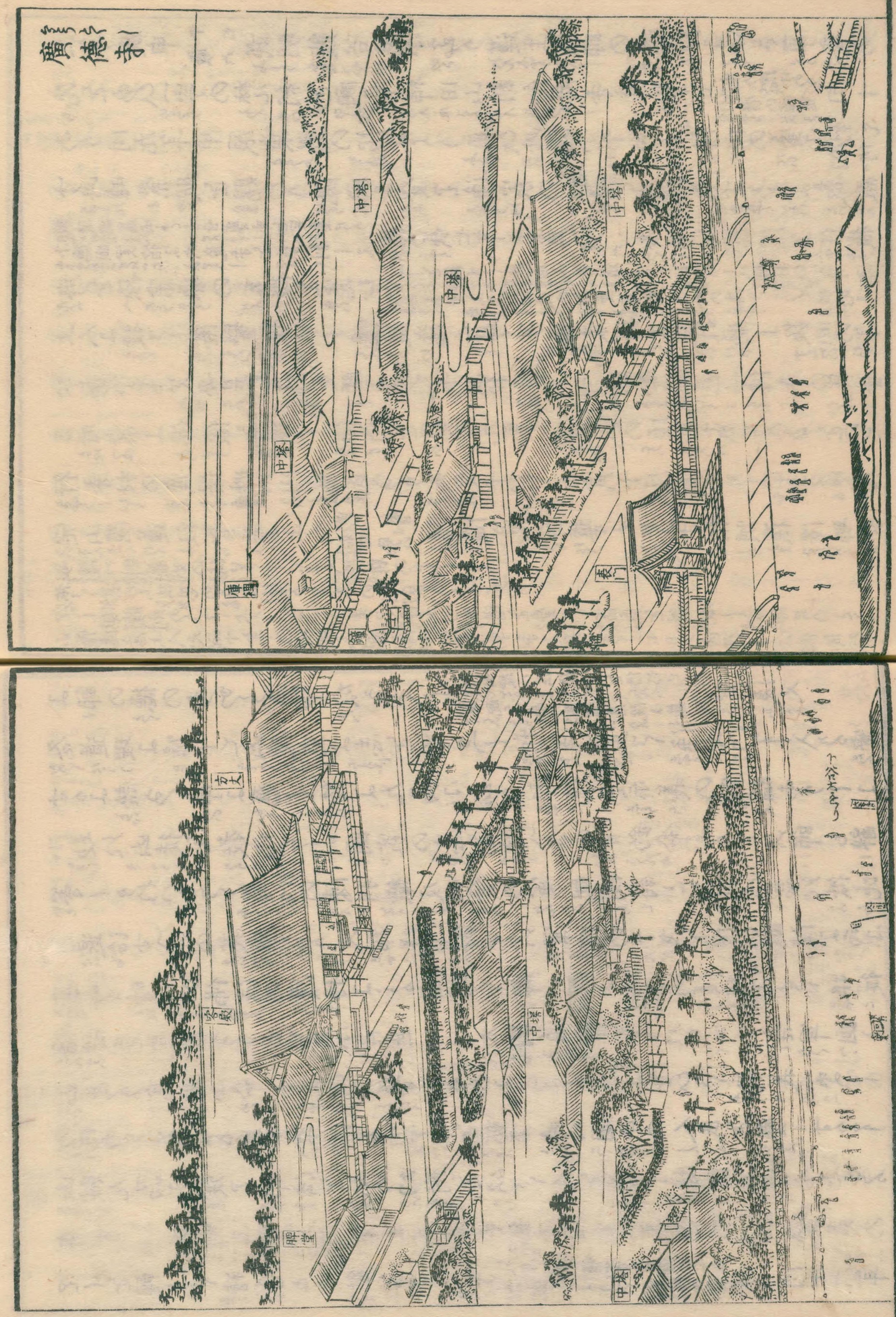
除厄安子堂　同所北の方浄土宗天弦山慈眼院よ安置ありと徳ちよ四十二年の御時除厄の為自彫刻しのひ霊像ありといふり当寺昔ハ神田明暦回禄の時本尊を失ふ依仕僧徳誉上人深く是を悲ひ霊告を得て再ひらく忍ひらの地の中島よりく此本尊を感得し安置ちむとそ

萬年山視言寺　同所南

まて良山存久和尚冠山たり往古の江戸城の辺視言村といふよりく天
文二十年の頃古因道灌草創を天正の頃山号を賜ひ又此地へ遷さる
日蓮大菩薩　同所新寺町より半丁ほり西南のかたより安立山長遠寺
小安置す伝云往古瓦洛南禅寺の普門禅師多年日天子を信敬し
一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拝を依て自筆をとゝく親景を摸
し奉る霊告ありく弘長元年辛酉六月遥よ営東よりり豆州伊
東小室り同六日日蓮上人よ謁し彼二尊の霊眼をを求む則上人冠眼
供養ありく花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士
自肖像を造るく禅師のもとよ贈らるの堂寺日蓮大士　禅師帰寂の後京
師要法寺よりの又妙栄寺よ安置ちりうなあらく文禄三年の
頃当寺よ遷せり
神田山幡隨意院　新知恩寺と号す浄家十八檀林の一室なりく本
尊阿弥陀如来ハ安阿弥の作なり　堂の左よあり傍よ碑
蛟龍水　碣を建る其文中小石

山幡隨意上人天正十年の秋越後國高田の善導寺より
りく一七日の間列時念佛修行あ
りく龍女ありく上人のりとよ来りく浄土の脈譜を受
悟りく其のち法恩のため樺ろところの清泉ありとのり
蛟龍ハ則龍女の法號ろうて上人授與あるりり
冠山演蓮社智譽上人　譜の
譽　幡隨意白導と号す相州藁澤郷善
行寺村の産俗姓ハ川島氏なり天文十一年壬寅十月十五日よ生る
る時常よ佛像を禮りく沙門を殺す九年
むとめくとも父母是を許さ既すて十一年竟小河國玉縄邑二傳寺の範誉
上人よ投るく落髪授戒りく幡隨意と号す爾来所くを往歴りく数回の年
序を経宗要の玄微を究む
慶長七年壬寅十一月洛陽知恩院よ住職
す此時紫服を賜り鳳闕よ登て浄家の秘蹟を講ぜ主上大よ感
あり同九年甲辰東武の招より再び此地よ化をのべ一宇の梵刹を開くく神田山新知恩寺と号
三年庚申　歳六十七　武州熊谷邑小石草庵あ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

839
20
57

所とぞなりをえれの頃今の地より引うつそ
明暦二年丙申松浦家の
母儀永昌院再興ありとぞ則境内より長者の墳墓あり
圓満山廣徳寺　同所よあり大徳寺派の禅宗にて始相州小田原
にありしを天正十九年江戸へ遷され神田より
山を希叟宗芳禅師とぞ
當寺の總門の名通の美事跡合考小冒
額とする所より詳よ橋脇主人あるこれる新斎疾話とぞ
下谷稲荷社　廣徳寺の前の側よあり祠よ俗
是大なる誤なり別當を正法院とぞ祭神の蒼稲魂命にて
面観世音の行基大士彫刻の霊像なりとぞ中の鳥井小忌二後稲荷大
明神と書る額あり崇保院公寛法親王の真蹟なり拝殿よ掲る
同神号の額い蓮光院道怨の筆なりとぞ
十一日よ狩谷の鎮守と称ぞ

国立国会図書館　　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用